Ⅰ　定点把握感染症

（性感染症を除く）

５類定点把握感染症（性感染症を除く）

１．2015（平成 27）年の総括

全国および大阪府内の指定された医療機関（定点把握対象の 5 類感染症定点）は小児科、インフルンエンザ（小児科・内科）、眼科、基幹定点から構成されている（表 1）。

表 1. 指定された医療機関（5 類定点）数

	全　国	大阪府
小児科	約 3,000	200
インフルエンザ（小児科・内科）	約 5,000	307
眼科	約 600	52
基幹	約 500	17
人口（国勢調査-2015）	127,110,047	8,838,908

2015（平成 27）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表 2）。

全国では、定点あたり年平均の週間報告数として感染性胃腸炎、インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症、流行性角結膜炎、伝染性紅斑とヘルパンギーナの順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、インフルエンザ、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、水痘、突発性発しん、の順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相異が認められている。

表 2. 定点あたり年平均の週間報告数

全　国			大　阪　府		
順位	疾　患	定点あたり報告数	順位	疾　患	定点あたり報告数
1	感染性胃腸炎	5.92	1	感染性胃腸炎	6.00
2	インフルエンザ	4.48	2	インフルエンザ	3.29
3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.40	3	手足口病	2.60
4	手足口病	2.29	4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.18
5	RS ウイルス感染症	0.72	5	RS ウイルス感染症	1.00
6	流行性角結膜炎	0.69	6	マイコプラズマ肺炎	0.71
7	伝染性紅斑 ヘルパンギーナ	0.59	7	水痘 突発性発しん	0.52

2015 年に増加傾向を示した 5 類定点把握感染症は手足口病、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎であった。また、過去 5 年間に比し、増加傾向を示した疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎であった。

（文責：小林）

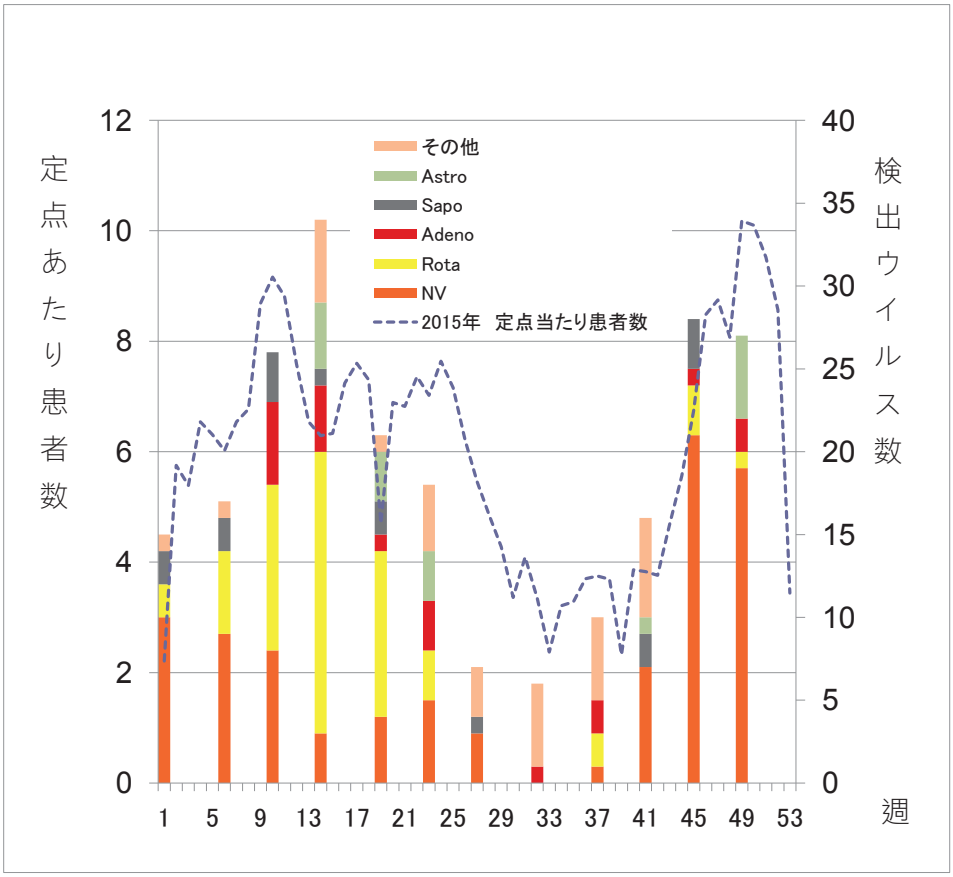
1）平成２７年に注目された感染症

［感染性胃腸炎］

以下の図 に平成 27 年の感染性胃腸炎定点あたりの患者数と検出ウイルス数を示す。定点あたりの報告数の年平均は 6.00 で、昨年（定点当たり 6.67）よりも減少した。患者発生のピークは第 49 週（定点当たり 10.18）で、全国集計（定点当たり 10.71）の第 51 週よりもやや早かった。大阪府平均で定点当たり 10 を超えたのは第 49 週および第 50 週のみであり、各ブロックでも警報レベルの 20 を超えることがなかった。最低値は第 1 週の 2.21 である。

病原体定点からの感染性胃腸炎の検査数は 377 件であり、212 件（陽性率 56.2%）からウイルスが検出された。最も多かったのはノロウイルス GII の 88 件であり、次いで A 群ロタウイルス 43 件、サポウイルス 23 件であった。他にアストロウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルスなども検出されている。ノロウイルスは 8 月を除くすべての月で検出され、11 月（21 件）に最も多く検出された。次いで 12 月（19 件）、1 月（10 件）が多かった。遺伝子型が報告された 49 件のうち、GII.4 が 77.6%を占め、すべて 6 歳以下からの検出であった。平成 27 年に全国的に流行した GII.17 は 5 例であったが、3 例は 15 歳以上からの検出であった。A 群ロタウイルスは 7 月、8 月および 10 月を除くすべての月で検出され、4 月（17 件）に最も多く、次いで 3 月（10 件）であった。サポウイルスは、5 月、8 月および 9 月以外で検出され、4 月（5 件）に最も多く検出された。

（文責：入谷）



【薬剤耐性菌感染症について】

（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症を中心に）

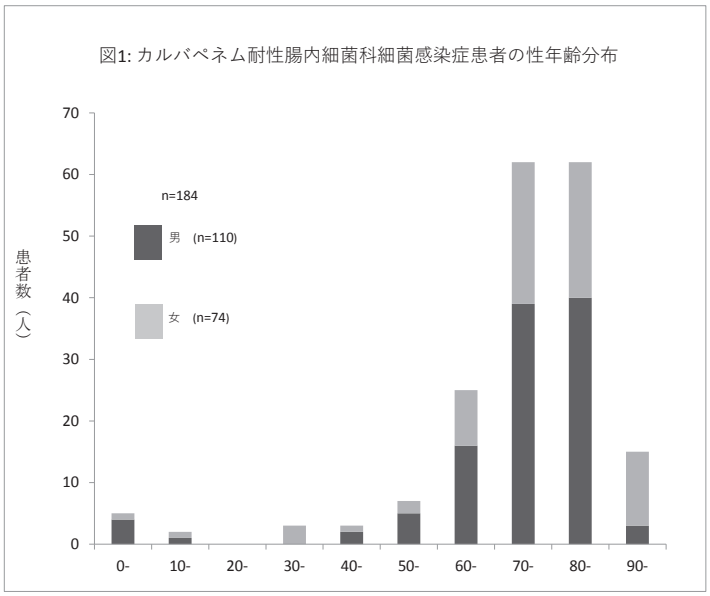
近年、薬剤耐性菌問題 (Antimicrobial Resistance, AMR) が国際的に大きく注目されている。世界保健機関 (WHO) は 2011 年の世界保健デーのテーマとして AMR を取り上げた。その際、“No action today, no cure tomorrow”(今日行動しなければ、明日の治療法はない) という印象的なキャッチコピーが採用された。先進各国でも AMR は大きな関心事であり、米国疾病予防管理センター（CDC）は 2013 年に “Antibiotic Resistant Threats in the United States, 2013” を発表し、米国内において推定される AMR の実態に基づいて警鐘を鳴らしている。上記レポートの中で喫緊の課題として、*Clostridium difficile*、Carbapenem-resistant *Enterobacteriaceae*（以下、CRE）、Drug-resistant *Neisseria gonorrhoeae* をあげている [1)]。

日本においては 2015 年 2 月に開催された第 12 回院内感染対策中央会議において、薬剤耐性菌対策に関する提言が発出された [2)]。

本稿において CDC が喫緊の課題として取り上げた 3 種類の耐性菌の内、CRE 感染症（5 類全数把握疾患）について、大阪府の現況を報告する。

CRE 感染症は、メロペネムなどのカルバペネム系薬および広域スペクトラムを有する β - ラクタム剤に対して耐性を示す大腸菌 *Escherichia coli*（*E. coli*）や肺炎桿菌 *Klebsiella pneumoniae*（*K. pneumoniae*）などの腸内細菌科細菌による感染症の総称である。広域スペクトルを有する β - ラクタム薬以外にも他系統の抗菌薬にも耐性を示したり、カルバペネム耐性遺伝子が伝達性プラスミド上に存在することが多いことが特徴である。したがって、プラスミドの伝播により、複数菌種にカルバペネム系薬耐性因子が拡散することから、臨床的にも疫学的にも重要な薬剤耐性菌である。日本では、2014 年 9 月 19 日より感染症法に基づく感染症発生動向調査における 5 類全数把握疾患に指定されている。

2016 年 CRE 感染症の大阪府の全報告数は 184 例、男性 110 例（59.8%）、診断時の年齢中央値は 78 歳（範囲 0-100 歳）で、65 歳以上が 159 例（86.4%）を占めた（図 1）。届出は、府域全ての保健所（大阪府 12 保健所＋政令・中核市保健所 6 保健所）にされており、CRE は大阪府に広く拡散している状況が理解できる。



症状（重複あり n=223）については尿路感染症が 78 例（35.0%）と最も多

く、次いで肺炎 46 例（20.6%）、菌血症・敗血症 40 例（17.9%）であった。
検体（重複あり n=203）については尿が 66 例（32.5%）と最多で、次いで血液が 49 例（24.1%）、喀痰が 33 例（16.3%）であった。

菌種について、記載がない症例が 11 例、不適切な菌種の記載（例：腸内細菌、基質特異性拡張型βラクタマーゼ：ESBL 菌）が 9 例、対象外の菌種が 2 例であった。適切な菌種が報告された 164 例のうち、*K. pneumoniae* が 54 例（32.9%）と最多で、次いで *E. coli* が 33 例（20.1 %）、*Enterobacter aerogenes*（*E. aerogenes*）が 31 例（18.9 %）、*Enterobacter cloacae*（*E. cloacae*）が 23 例（14.6%）であった（表 1）。2 例で 2 種類の異なる菌種（*K. pneumoniae* と *E. coli*）による感染症が認められた。全国には *E. cloacae* や *E. aerogenes* などの *Enterobacter* 属菌が多い傾向[3] にあるが、大阪府内においては *K. pneumoniae* と *E. coli* が多い。

表1: CRE分離菌

菌名	総数	割合(n=164)
Klebsiella pneumoniae	54	32.90%
Escherichia coli	33	20.10%
Enterobacter aerogenes	31	18.90%
Enterobacter cloacae	24	14.60%
Serratia spp	8	4.90%
Citrobacter spp	6	3.70%
Providencia spp	3	1.80%
など		

CRE で重要な点は、前述のカルバペネム耐性遺伝子がプラスミドの伝達により複数菌種に拡散することである。特に、注目すべきはカルバペネム系抗菌薬を分解する、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌（carbapenemase-producing Enterobacteriaceae：以下、CPE）である。*Enterobacter* 属菌や *Klebsiella* 属菌においては、CRE の中にカルバペネマーゼを産生しない菌株も散見され④、院内感染対策上重要である CPE の実態把握は不十分である。CPE の実態把握においては、カルバペネマーゼをコードする遺伝子の検出が重要であるが、本検査は保険未収載のため、一部の医療機関や地方衛生研究所で実施されている。詳細な発生動向を調査し、対策を講じるため、医療機関と地方自治体（保健所、地方衛生研究所）の連携強化が望まれる。

最後に、薬剤耐性菌対策に関する提言に記載されている対策について列挙する。

1. 抗菌薬の適正使用（Antimicrobial Stewardship の推進、国民への啓発）
2. 感染制御の強化（地域連携、感染管理認定看護師等の役割、アウトブイク対応）
3. 耐性菌サーベイランスの強化

引用文献

1)Centers for Disease Control and Prevention. Antibiotic Resistant Threats in the United States, 2013
http://www.cdc.gov/drugresistance/pdf/ar-threats-2013-508.pdf

2) 厚生労働省. 院内感染中央会議 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei.html?tid=127281

3) 国立感染症研究所、実地疫学専門家養成コース、感染症疫学センター、細菌第二部. 2016. 感

染症法に基づくカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の届出状況、2014 年 9 月～ 2015 年 8 月．病原微生物検出情報（IASR）37:15-16．http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1729-source/drug-resistance/idsc/iasr-in/6184-kj4311.html

1　荒川　宣親．2015．カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（carbapenem-resistant Enterobacteriaceae，CRE）等　新型多剤耐性菌のグローバル化と臨床的留意点．日本化学療法学会雑誌　63:187-197．
http://www.chemotherapy.or.jp/journal/jjc/06302/063020187.pdf

（文責：田邉）

2）感染症別・週別患者報告状況

夏型感染症（咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなど）や冬型感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎）が知られている。主として、「1．2015（平成 27）年の総括」で記した疾患について、定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表 1）。

表 1．定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値（2015 年）

大　阪　府				
	疾　　患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	2週（1月第2週）	28.83	30
2	手足口病	29週（7月第2週）	12.77	5
3	感染性胃腸炎	49週（11月第5週）	10.18	20
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22週（5月第4週）	6.62	8
5	RSウイルス感染症	49週（11月第5週）	4.05	未設定
6	マイコプラズマ肺炎	51週（12月第2週）	1.65	未設定
7	水痘	2週（1月第2週）	1.17	7
	突発性発しん	25週（6月第3週）	0.78	未設定

2015 年と 2014 年における感染症発生動向の増減を比較すると、2015 年は RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎やマイコプラズマ肺炎が増加傾向を示している（表 2）。また、トレンド解析から伝染性紅斑、流行性耳下腺炎やマイコプラズマ肺炎は 4 － 5 年ぶりの流行と考えられる

（文責：小林）

表 2．2015 年と 2014 年における感染症発生動向比較　（増：↑、減：↓）

疾患名	2015年	2014年
インフルエンザ　↓	53,678	95,872
RSウイルス感染症　↑	10,596	8,574
咽頭結膜熱　↓	4,640	5,825
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎　↑	23,081	20,821
感染性胃腸炎	63,584	68,961
水痘　↓	5,534	9,776
手足口病　↑	27,500	2,239
伝染性紅斑　↑	5,409	691
突発性発しん	5,491	5,541
百日咳	219	171
ヘルパンギーナ　↓	5,096	9,704
流行性耳下腺炎　↑	3,761	1,721
小児科定点疾患　合計	154,911	134,024
急性出血性結膜炎　↑	42	27
流行性角結膜炎　↑	1,053	758
眼科定点疾患　合計	1,095	785
細菌性髄膜炎	16	20
無菌性髄膜炎　↑	35	22
マイコプラズマ肺炎　↑	640	135
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	9	12
感染性胃腸炎(ロタウイルス)　↑	293	229
基幹定点疾患　合計	993	418

3）感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック s（1．豊能、2．三島、3．北河内、4．中河内、5．南河内、6．堺市、7．泉州、8．大阪市北部、9．大阪市西部、10．大阪市東部、11．大阪市南部）に分け、解析・評価した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位 8 疾患のうち、南河内は 5 疾患（感染性胃腸炎、手足口病、RS ウイルス感染症、突発性発しん、流行性耳下腺炎）で首位を占めている（表）。2014 年においても南河内に多い傾向は同様である。

表．感染症別・ブロック別患者報告状況（太字は最高ブロックと報告数）

感染性胃腸炎		インフルエンザ		手足口病		溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊　能	4.9	豊　能	2.79	豊　能	1.81	豊　能	2.21
三　島	5.45	三　島	2.45	三　島	1.89	三　島	1.01
北河内	7.57	北河内	3.48	北河内	3.5	北河内	2.23
中河内	8.83	中河内	2.9	中河内	3.16	**中河内**	**2.64**
南河内	**9.18**	南河内	4.74	**南河内**	**4.23**	南河内	3.04
堺　市	3.02	堺　市	2.96	堺　市	1.73	堺　市	2.14
泉　州	7.84	泉　州	3.2	泉　州	3.1	泉　州	2.42
大阪市北部	5.16	大阪市北部	3.81	大阪市北部	2.91	大阪市北部	1.76
大阪市西部	5.7	**大阪市西部**	**6.11**	大阪市西部	1.99	大阪市西部	1.69
大阪市東部	3.41	大阪市東部	2.99	大阪市東部	1.55	大阪市東部	1.78
大阪市南部	3.44	大阪市南部	2.36	大阪市南部	2.05	大阪市南部	2.51
大阪府内合計	6	府内合計	3.29	府内合計	2.6	府内合計	2.18

RSウイルス感染症		水痘		突発性発しん		流行性耳下腺炎	
豊　能	0.78	豊　能	0.42	豊　能	0.44	豊　能	0.1
三　島	0.49	三　島	0.56	三　島	0.28	三　島	0.1
北河内	1.12	北河内	0.52	北河内	0.63	北河内	0.25
中河内	1.22	中河内	0.64	中河内	0.73	中河内	0.69
南河内	**1.68**	南河内	0.62	**南河内**	**0.76**	**南河内**	**0.79**
堺　市	0.62	堺　市	0.39	堺　市	0.28	堺　市	0.13
泉　州	0.97	泉　州	0.42	泉　州	0.6	泉　州	0.22
大阪市北部	1.47	**大阪市北部**	**0.88**	大阪市北部	0.57	大阪市北部	0.5
大阪市西部	1.43	大阪市西部	0.69	大阪市西部	0.5	大阪市西部	0.63
大阪市東部	0.75	大阪市東部	0.35	大阪市東部	0.4	大阪市東部	0.09
大阪市南部	0.73	大阪市南部	0.46	大阪市南部	0.42	大阪市南部	0.66
大阪府内合計	1	府内合計	0.52	府内合計	0.52	府内合計	0.35

（文責：小林）

4）感染症別・年齢別患者報告状況

5 類定点把握感染症は小児科領域の疾患が多いため、14 歳以下、特に最も多い年齢層は 1 歳台である（表）。インフルエンザは小児科に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、20 歳以上の報告数が最多である。

（文責：小林）

表．定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

大　阪　府	
疾　　患	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20歳以上
RSウイルス感染症	1歳台
咽頭結膜熱	1歳台
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳台
感染性胃腸炎	1歳台
水痘	4歳台
手足口病	1歳台
伝染性紅斑	5歳台
突発性発しん	1歳台
百日咳	10－14歳
マイコプラズマ肺炎	10－14歳
ヘルパンギーナ	1歳台
流行性耳下腺炎	5歳台
急性出血性結膜炎	20歳以上
流行性角結膜炎	20歳以上
マイコプラズマ肺炎	10－14歳
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1歳台

平成 27 年 感染症発生動向調査　カレンダー

調査期間は月曜日から日曜日までの１週間を単位としています。

週	調査期間
１週	12.29 ～ 1.4
２週	1.5 ～ 1.11
３週	1.12 ～ 1.18
４週	1.19 ～ 1.25
５週	1.26 ～ 2.1
６週	2.2 ～ 2.8
７週	2.9 ～ 2.15
８週	2.16 ～ 2.22
９週	2.23 ～ 3.1
１０週	3.2 ～ 3.8
１１週	3.9 ～ 3.15
１２週	3.16 ～ 3.22
１３週	3.23 ～ 3.29
１４週	3.30 ～ 4.5
１５週	4.6 ～ 4.12
１６週	4.13 ～ 4.19
１７週	4.20 ～ 4.26
１８週	4.27 ～ 5.3

週	調査期間
１９週	5.4 ～ 5.10
２０週	5.11 ～ 5.17
２１週	5.18 ～ 5.24
２２週	5.25 ～ 5.31
２３週	6.1 ～ 6.7
２４週	6.8 ～ 6.14
２５週	6.15 ～ 6.21
２６週	6.22 ～ 6.28
２７週	6.29 ～ 7.5
２８週	7.6 ～ 7.12
２９週	7.13 ～ 7.19
３０週	7.20 ～ 7.26
３１週	7.27 ～ 8.2
３２週	8.3 ～ 8.9
３３週	8.10 ～ 8.16
３４週	8.17 ～ 8.23
３５週	8.24 ～ 8.30
３６週	8.31 ～ 9.6

週	調査期間
３７週	9.7 ～ 9.13
３８週	9.14 ～ 9.20
３９週	9.21 ～ 9.27
４０週	9.28 ～ 10.4
４１週	10.5 ～ 10.11
４２週	10.12 ～ 10.18
４３週	10.19 ～ 10.25
４４週	10.26 ～ 11.1
４５週	11.2 ～ 11.8
４６週	11.9 ～ 11.15
４７週	11.16 ～ 11.22
４８週	11.23 ～ 11.29
４９週	11.30 ～ 12.6
５０週	12.7 ～ 12.13
５１週	12.14 ～ 12.20
５２週	12.21 ～ 12.27
５３週	12.28 ～ 1.3

平成 27 年 年平均の定点あたり報告数上位 5 疾患（大阪府内）

	1位		2位		3位		4位		5位		TOPICS
1週	感染性胃腸炎	436	RSウイルス感染症	202	A群溶連菌咽頭炎	100	水痘	97	突発性発しん	27	インフルエンザ　警報レベル超える
2	感染性胃腸炎	1117	RSウイルス感染症	383	A群溶連菌咽頭炎	306	水痘	225	突発性発しん	94	インフルエンザ　流行続く
3	感染性胃腸炎	1083	A群溶連菌咽頭炎	329	RSウイルス感染症	224	水痘	88	突発性発しん	82	インフルエンザ　僅かに減少
4	感染性胃腸炎	1302	A群溶連菌咽頭炎	421	RSウイルス感染症	201	水痘	132	突発性発しん	77	インフルエンザ　流行続く
5	感染性胃腸炎	1268	A群溶連菌咽頭炎	492	RSウイルス感染症	246	水痘	105	手足口病	99	インフルエンザ　ピーク越える
6	感染性胃腸炎	1210	A群溶連菌咽頭炎	467	RSウイルス感染症	252	手足口病	111	水痘	88	インフルエンザ　減少続く
7	感染性胃腸炎	1314	A群溶連菌咽頭炎	395	RSウイルス感染症	202	水痘	120	手足口病	106	インフルエンザ　さらに減少
8	感染性胃腸炎	1338	A群溶連菌咽頭炎	489	RSウイルス感染症	161	水痘	85	突発性発しん	75	インフルエンザ　減少続く
9	感染性胃腸炎	1717	A群溶連菌咽頭炎	528	RSウイルス感染症	148	水痘	116	手足口病	115	インフルエンザ　終息へ向かう
10	感染性胃腸炎	1795	A群溶連菌咽頭炎	548	手足口病	141	RSウイルス感染症	104	突発性発しん	99	手足口病　増加
11	感染性胃腸炎	1726	A群溶連菌咽頭炎	527	手足口病	184	水痘	124	RSウイルス感染症	103	手足口病　さらに増加
12	感染性胃腸炎	1506	A群溶連菌咽頭炎	523	手足口病	194	水痘	110	RSウイルス感染症	103	手足口病　増加続く
13	感染性胃腸炎	1250	A群溶連菌咽頭炎	518	手足口病	235	水痘	131	突発性発しん	112	手足口病　さらに増加
14	感染性胃腸炎	1215	A群溶連菌咽頭炎	359	手足口病	188	水痘	106	突発性発しん	93	伝染性紅斑　増加
15	感染性胃腸炎	1245	A群溶連菌咽頭炎	416	手足口病	275	突発性発しん	119	水痘	114	手足口病　再び増加
16	感染性胃腸炎	1446	A群溶連菌咽頭炎	520	手足口病	477	伝染性紅斑	113	水痘	111	手足口病　増加続く
17	感染性胃腸炎	1507	A群溶連菌咽頭炎	642	手足口病	559	伝染性紅斑	133	突発性発しん	121	手足口病　さらに増加
18	感染性胃腸炎	1380	A群溶連菌咽頭炎	618	手足口病	561	突発性発しん	117	咽頭結膜熱	109	インフルエンザ　終息か
19	感染性胃腸炎	932	手足口病	360	A群溶連菌咽頭炎	315	水痘	117	突発性発しん	116	
20	感染性胃腸炎	1376	A群溶連菌咽頭炎	670	手足口病	388	突発性発しん	137	咽頭結膜熱	115	インフルエンザ　終息
21	感染性胃腸炎	1362	A群溶連菌咽頭炎	662	手足口病	592	突発性発しん	138	伝染性紅斑	120	手足口病　増加
22	感染性胃腸炎	1473	A群溶連菌咽頭炎	721	手足口病	658	咽頭結膜熱	169	伝染性紅斑	166	咽頭結膜熱　増加
23	感染性胃腸炎	1389	A群溶連菌咽頭炎	658	手足口病	584	突発性発しん	142	咽頭結膜熱	131	手足口病に引き続き注意
24	感染性胃腸炎	1524	手足口病	874	A群溶連菌咽頭炎	746	伝染性紅斑	169	咽頭結膜熱	137	手足口病　再び増加
25	感染性胃腸炎	1429	手足口病	1097	A群溶連菌咽頭炎	636	ヘルパンギーナ	165	咽頭結膜熱	164	夏型感染症　増加
26	感染性胃腸炎	1234	手足口病	1137	A群溶連菌咽頭炎	637	伝染性紅斑	203	ヘルパンギーナ	192	伝染性紅斑　増加
27	手足口病	1398	感染性胃腸炎	1092	A群溶連菌咽頭炎	555	ヘルパンギーナ	314	伝染性紅斑	218	手足口病　増加続く
28	手足口病	1812	感染性胃腸炎	971	A群溶連菌咽頭炎	497	ヘルパンギーナ	346	伝染性紅斑	231	手足口病　府内全域で警報レベル
29	手足口病	2537	感染性胃腸炎	831	ヘルパンギーナ	509	A群溶連菌咽頭炎	457	伝染性紅斑	204	夏型感染症　増加
30	手足口病	2234	感染性胃腸炎	670	ヘルパンギーナ	448	A群溶連菌咽頭炎	329	突発性発しん	135	夏型感染症　ピーク越えか
31	手足口病	2252	感染性胃腸炎	816	ヘルパンギーナ	555	A群溶連菌咽頭炎	313	伝染性紅斑	131	手足口病　警報レベル続く
32	手足口病	1969	感染性胃腸炎	668	ヘルパンギーナ	493	A群溶連菌咽頭炎	281	伝染性紅斑	136	手足口病　ピーク越える
33	手足口病	1072	感染性胃腸炎	456	ヘルパンギーナ	354	A群溶連菌咽頭炎	167	伝染性紅斑	124	手足口病　減少
34	手足口病	977	感染性胃腸炎	624	ヘルパンギーナ	248	A群溶連菌咽頭炎	199	咽頭結膜熱	119	手足口病　さらに減少
35	手足口病	912	感染性胃腸炎	655	A群溶連菌咽頭炎	232	ヘルパンギーナ	228	突発性発しん	131	夏型感染症　減少
36	手足口病	769	感染性胃腸炎	739	A群溶連菌咽頭炎	273	ヘルパンギーナ	199	RSウイルス感染症	120	ＲＳウイルス感染症　増加の兆し
37	感染性胃腸炎	750	手足口病	624	A群溶連菌咽頭炎	266	RSウイルス感染症	162	ヘルパンギーナ	150	ＲＳウイルス感染症　増加
38	感染性胃腸炎	685	手足口病	510	A群溶連菌咽頭炎	286	RSウイルス感染症	177	ヘルパンギーナ	123	感染症　端境期
39	感染性胃腸炎	454	手足口病	318	A群溶連菌咽頭炎	168	RSウイルス感染症	147	流行性耳下腺炎	83	
40	感染性胃腸炎	773	A群溶連菌咽頭炎	301	手足口病	276	RSウイルス感染症	176	突発性発しん 流行性耳下腺炎	104	手足口病　終息へ
41	感染性胃腸炎	759	A群溶連菌咽頭炎	297	RSウイルス感染症	266	手足口病	163	突発性発しん	97	ＲＳウイルス感染症　増加
42	感染性胃腸炎	752	RSウイルス感染症	340	A群溶連菌咽頭炎	314	伝染性紅斑	101	手足口病	100	ＲＳウイルス感染症　増加続く
43	感染性胃腸炎	936	RSウイルス感染症	383	A群溶連菌咽頭炎	383	流行性耳下腺炎	122	突発性発しん	103	感染性胃腸炎　増加
44	感染性胃腸炎	1100	RSウイルス感染症	351	A群溶連菌咽頭炎	346	水痘	105	突発性発しん	102	感染性胃腸炎　さらに増加
45	感染性胃腸炎	1350	RSウイルス感染症	367	A群溶連菌咽頭炎	358	突発性発しん	112	伝染性紅斑	110	感染性胃腸炎　増加続く
46	感染性胃腸炎	1680	RSウイルス感染症	536	A群溶連菌咽頭炎	404	水痘	139	流行性耳下腺炎	125	感染性胃腸炎　さらに増加続く
47	感染性胃腸炎	1732	RSウイルス感染症	580	A群溶連菌咽頭炎	440	伝染性紅斑	186	水痘	141	ＲＳウイルス感染症　増加
48	感染性胃腸炎	1614	RSウイルス感染症	724	A群溶連菌咽頭炎	401	水痘	158	伝染性紅斑	128	ＲＳウイルス感染症　増加続く
49	感染性胃腸炎	2036	RSウイルス感染症	809	A群溶連菌咽頭炎	532	伝染性紅斑	158	水痘	153	ＲＳウイルス感染症　さらに増加
50	感染性胃腸炎	2017	RSウイルス感染症	736	A群溶連菌咽頭炎	526	水痘	162	伝染性紅斑	139	ＲＳウイルス感染症　やや減少
51	感染性胃腸炎	1904	RSウイルス感染症	786	A群溶連菌咽頭炎	649	水痘	174	咽頭結膜熱	150	ＲＳウイルス感染症　再び増加
52	感染性胃腸炎	1696	RSウイルス感染症	561	A群溶連菌咽頭炎	489	伝染性紅斑	153	水痘	130	インフルエンザ　増加の兆し
53	感染性胃腸炎	662	RSウイルス感染症	259	A群溶連菌咽頭炎	200	水痘	104	咽頭結膜熱	59	

注1：疾患名は小児科定点の対象疾患です。　　注2：週遅れデータは含まれていません。

注3：Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎はＡ群溶連菌咽頭炎と表示しています。

平成 27 年 感染症別・週別報告状況 (全国集計)

月	1月					2月				3月				
疾病名　週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
インフルエンザ	100,777	164,796	183,748	195,714	144,344	94,390	60,194	40,923	29,145	21,383	19,703	19,023	13,029	10,603
RSウイルス感染症	2,437	3,487	2,183	2,338	2,244	1,889	1,591	1,428	1,407	1,366	1,284	1,047	919	770
咽頭結膜熱	617	1,244	721	961	813	969	856	975	909	999	1,035	1,037	1,002	970
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2,226	5,715	5,819	7,380	7,708	8,149	7,878	9,105	9,489	9,846	9,841	9,287	8,488	6,717
感染性胃腸炎	10,283	25,904	23,395	25,649	23,992	22,870	21,361	23,858	24,753	25,555	25,951	23,058	20,892	19,472
水痘	1,692	3,473	1,634	1,896	1,403	1,609	1,476	1,593	1,427	1,630	1,623	1,534	1,667	1,681
手足口病	448	811	730	963	1,081	1,184	994	963	1,114	1,291	1,389	1,323	1,593	1,421
伝染性紅斑	287	1,391	1,372	1,410	1,236	1,097	959	952	1,059	1,182	1,236	1,290	1,384	1,468
突発性発しん	440	1,351	1,315	1,349	1,302	1,254	1,313	1,347	1,440	1,468	1,419	1,397	1,521	1,521
百日咳	10	26	23	23	39	38	21	29	20	34	43	31	41	39
ヘルパンギーナ	44	61	61	60	51	69	47	59	59	61	95	107	130	111
流行性耳下腺炎	415	1,350	828	711	964	736	844	965	888	1,048	1,043	948	1,155	1,062
急性出血性結膜炎	2	14	10	12	13	4	4	8	7	8	8	12	8	7
流行性角結膜炎	145	500	315	291	270	245	242	277	294	273	295	226	315	364
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）	19,046	45,327	38,406	43,043	41,116	40,113	37,586	41,559	42,866	44,761	45,262	41,297	39,115	35,603
細菌性髄膜炎	7	5	9	10	10	3	8	8	4	6	9	14	6	7
無菌性髄膜炎	4	15	12	11	17	12	12	11	14	12	20	15	16	9
マイコプラズマ肺炎	56	138	133	109	104	95	98	95	114	109	95	111	119	102
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	2	5	2	6	4	10	3	5	6	14	14	8	7	6
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	36	35	68	70	71	73	126	152	149	202	198	245	240	278
合計（細菌性髄膜炎～ロタウイルス）	105	198	224	206	206	193	247	271	287	343	336	393	388	402

月	7月				8月					9月			
疾病名　週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
インフルエンザ	453	482	383	316	269	233	254	314	292	345	284	225	208
RSウイルス感染症	357	489	554	718	960	915	1,127	1,693	2,090	2,665	3,021	2,012	2,653
咽頭結膜熱	2,036	1,757	1,444	1,564	1,496	1,114	1,346	1,185	1,116	1,079	978	568	837
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	9,460	7,829	5,493	5,377	4,628	3,152	3,600	3,894	4,583	5,079	5,254	2,969	5,101
感染性胃腸炎	16,065	13,932	10,832	11,345	10,740	7,592	9,872	9,671	10,818	10,520	9,898	6,384	9,882
水痘	1,307	1,252	1,084	943	932	677	819	742	770	762	889	778	984
手足口病	23,375	32,140	29,703	32,360	28,262	18,134	17,613	17,786	16,160	15,808	14,059	7,595	7,118
伝染性紅斑	3,813	3,651	2,434	2,252	1,965	1,171	1,621	1,703	1,818	1,648	1,473	929	1,427
突発性発しん	1,950	1,866	1,758	1,879	1,895	1,360	1,752	1,916	1,886	1,804	1,734	1,103	1,637
百日咳	68	50	59	73	70	39	47	72	68	70	71	38	42
ヘルパンギーナ	8,384	10,541	8,909	9,632	8,243	5,235	4,560	4,560	3,780	3,247	2,536	1,081	1,164
流行性耳下腺炎	1,831	1,762	1,654	1,827	1,664	1,331	1,645	1,603	1,524	1,648	1,705	1,437	1,896
急性出血性結膜炎	11	9	10	8	16	6	8	20	6	9	6	7	8
流行性角結膜炎	492	516	577	607	594	434	792	751	748	738	709	579	750
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）	69,149	75,794	64,511	68,585	61,465	41,160	44,802	45,596	45,367	45,077	42,333	25,480	33,499
細菌性髄膜炎	4	10	15	5	10	12	12	14	7	6	5	12	11
無菌性髄膜炎	28	28	37	39	32	36	37	33	37	34	32	20	29
マイコプラズマ肺炎	122	168	156	168	190	240	238	231	265	234	281	247	340
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	4	8	5	5	7	7	5	12	11	5	8	5	15
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	20	24	10	5	8	8	7	3	3	5	4	2	8
合計（細菌性髄膜炎～ロタウイルス）	178	238	223	222	247	303	299	293	323	284	330	286	403

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
7,744	10,210	9,974	6,951	3,506	2,919	2,503	1,957	1,232	846	633	535	516
687	777	708	528	314	306	323	309	300	278	301	262	324
854	1,038	1,510	1,765	1,180	1,764	2,010	2,494	2,505	2,427	2,578	2,254	2,129
6,980	9,092	10,051	9,507	5,198	10,858	10,748	11,356	10,718	11,526	9,891	9,635	9,416
18,540	21,637	22,788	20,671	12,934	21,420	21,987	22,662	20,589	22,482	19,598	18,337	16,702
1,452	1,278	1,451	1,569	1,408	1,584	1,278	1,672	1,535	1,331	1,432	1,412	1,268
1,718	2,442	3,356	3,572	2,388	3,403	5,273	6,328	5,926	8,447	11,027	14,428	17,333
1,427	2,308	2,457	2,460	1,140	2,261	2,346	2,721	2,045	2,898	2,822	3,523	3,157
1,736	1,787	1,969	1,915	1,345	2,025	2,099	2,085	2,116	2,036	2,066	2,135	1,931
47	42	51	70	30	59	53	63	89	68	67	75	92
180	225	333	436	292	614	996	1,170	1,466	2,147	3,485	4,695	6,061
1,106	1,126	1,077	1,282	1,059	1,295	1,349	1,342	1,506	1,376	1,565	1,782	1,729
12	8	10	15	4	11	12	9	9	15	13	6	5
329	300	340	377	282	407	400	366	445	491	512	531	576
35,068	42,060	46,101	44,167	27,574	46,007	48,874	52,577	49,249	55,522	55,357	59,075	60,723
10	9	10	12	9	6	8	11	12	5	9	3	3
18	17	12	19	13	18	12	21	19	22	23	15	17
97	112	132	129	107	126	125	100	113	123	129	124	145
2	2	10	8	8	10	8	3	5	9	4	10	8
234	227	256	263	172	178	165	149	105	96	61	37	24
361	367	420	431	309	338	318	284	254	255	226	189	197

10月				11月					12月				合計
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
302	343	475	501	632	683	904	801	991	1,700	2,288	3,749	4,316	1,169,041
3,732	3,875	4,126	4,780	4,727	5,491	6,763	6,699	7,350	7,497	6,967	5,775	3,206	120,049
796	810	983	1,056	1,091	1,240	1,513	1,443	1,803	2,017	2,188	2,047	1,027	72,150
5,675	5,412	6,927	7,185	7,213	8,182	8,746	7,404	9,865	10,559	11,201	9,833	4,029	401,274
10,339	10,426	13,704	16,030	18,145	21,815	22,741	20,418	27,438	32,158	33,861	31,931	14,015	987,912
844	1,054	1,119	1,297	1,401	1,736	1,913	2,046	2,348	2,226	2,759	2,445	1,479	77,614
5,481	3,442	2,659	2,035	1,655	1,157	1,220	842	720	567	400	347	136	381,720
1,382	1,269	1,611	1,475	1,850	1,865	2,473	1,914	2,480	2,518	2,269	2,621	1,001	98,521
1,526	1,450	1,609	1,637	1,563	1,636	1,669	1,425	1,512	1,453	1,375	1,233	647	84,957
56	55	72	52	61	74	69	62	46	32	48	41	17	2,675
847	449	350	315	185	177	215	156	152	125	114	96	44	98,212
1,829	1,780	2,138	1,721	2,047	2,201	2,131	2,411	2,544	2,680	2,984	2,790	1,712	81,046
6	10	9	13	9	10	3	10	17	14	6	9	8	494
628	559	656	609	525	575	616	584	582	559	586	595	268	25,037
33,141	30,591	35,963	38,205	40,472	46,159	50,072	45,414	56,857	62,405	64,758	59,763	27,589	2,431,661
8	5	11	6	12	10	14	6	9	9	8	8	10	452
20	20	13	23	20	16	21	18	19	25	21	14	11	1,069
348	307	369	329	332	368	346	322	412	399	374	327	214	10,367
14	6	11	13	3	16	13	9	8	15	11	12	5	412
8	8	11	14	33	12	18	22	32	40	46	46	43	4,350
398	346	415	385	400	422	412	377	480	488	460	407	283	16,650

平成 27 年 感染症別・週別定点あたり報告状況 (全国集計)

月	1月					2月				3月				
疾病名　週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
インフルエンザ	21.56	33.38	37.10	39.51	29.14	19.06	12.17	8.28	5.89	4.33	3.99	3.85	2.64	2.14
RSウイルス感染症	0.82	1.11	0.69	0.74	0.71	0.60	0.50	0.45	0.45	0.43	0.41	0.33	0.29	0.24
咽頭結膜熱	0.21	0.39	0.23	0.30	0.26	0.31	0.27	0.31	0.29	0.32	0.33	0.33	0.32	0.31
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.75	1.81	1.84	2.34	2.44	2.58	2.50	2.89	3.01	3.12	3.12	2.95	2.69	2.13
感染性胃腸炎	3.48	8.22	7.40	8.12	7.59	7.24	6.77	7.56	7.84	8.10	8.24	7.32	6.63	6.17
水痘	0.57	1.10	0.52	0.60	0.44	0.51	0.47	0.51	0.45	0.52	0.52	0.49	0.53	0.53
手足口病	0.15	0.26	0.23	0.30	0.34	0.37	0.32	0.31	0.35	0.41	0.44	0.42	0.51	0.45
伝染性紅斑	0.10	0.44	0.43	0.45	0.39	0.35	0.30	0.30	0.34	0.37	0.39	0.41	0.44	0.46
突発性発しん	0.15	0.43	0.42	0.43	0.41	0.40	0.42	0.43	0.46	0.47	0.45	0.44	0.48	0.48
百日咳	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
ヘルパンギーナ	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.04
流行性耳下腺炎	0.14	0.43	0.26	0.23	0.30	0.23	0.27	0.31	0.28	0.33	0.33	0.30	0.37	0.34
急性出血性結膜炎	0.00	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.22	0.73	0.46	0.42	0.39	0.36	0.35	0.40	0.43	0.40	0.43	0.33	0.46	0.53
細菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.03	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.01	0.03	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	0.02
マイコプラズマ肺炎	0.12	0.29	0.28	0.23	0.22	0.20	0.21	0.20	0.24	0.23	0.20	0.23	0.25	0.21
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.03	0.03	0.02	0.01	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.08	0.07	0.14	0.15	0.15	0.15	0.26	0.32	0.31	0.42	0.41	0.51	0.50	0.58

	7月				8月					9月			
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
インフルエンザ	0.09	0.10	0.08	0.06	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06	0.07	0.06	0.05	0.04
RSウイルス感染症	0.11	0.16	0.18	0.23	0.30	0.30	0.36	0.54	0.66	0.84	0.97	0.64	0.84
咽頭結膜熱	0.64	0.56	0.46	0.50	0.48	0.37	0.43	0.38	0.35	0.34	0.31	0.18	0.27
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	3.00	2.49	1.74	1.70	1.47	1.03	1.15	1.24	1.45	1.61	1.68	0.94	1.62
感染性胃腸炎	5.09	4.42	3.44	3.60	3.41	2.49	3.17	3.08	3.42	3.33	3.17	2.03	3.13
水痘	0.41	0.40	0.34	0.30	0.30	0.22	0.26	0.24	0.24	0.24	0.28	0.25	0.31
手足口病	7.40	10.21	9.42	10.26	8.98	5.95	5.65	5.67	5.12	5.00	4.50	2.41	2.25
伝染性紅斑	1.21	1.16	0.77	0.71	0.62	0.38	0.52	0.54	0.58	0.52	0.47	0.30	0.45
突発性発しん	0.62	0.59	0.56	0.60	0.60	0.45	0.56	0.61	0.60	0.57	0.56	0.35	0.52
百日咳	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01
ヘルパンギーナ	2.65	3.35	2.83	3.05	2.62	1.72	1.46	1.45	1.20	1.03	0.81	0.34	0.37
流行性耳下腺炎	0.58	0.56	0.52	0.58	0.53	0.44	0.53	0.51	0.48	0.52	0.55	0.46	0.60
急性出血性結膜炎	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.71	0.75	0.84	0.88	0.87	0.64	1.15	1.09	1.08	1.07	1.04	0.84	1.09
細菌性髄膜炎	0.01	0.02	0.03	0.01	0.02	0.03	0.03	0.03	0.01	0.01	0.01	0.03	0.02
無菌性髄膜炎	0.06	0.06	0.08	0.08	0.07	0.08	0.08	0.07	0.08	0.07	0.07	0.04	0.06
マイコプラズマ肺炎	0.26	0.35	0.33	0.35	0.40	0.50	0.50	0.48	0.55	0.49	0.59	0.52	0.71
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.02	0.01	0.02	0.01	0.03
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.04	0.05	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
1.57	2.06	2.02	1.43	0.71	0.59	0.51	0.40	0.25	0.17	0.13	0.11	0.10
0.22	0.25	0.22	0.17	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.09	0.10	0.08	0.10
0.27	0.33	0.48	0.57	0.37	0.56	0.64	0.79	0.79	0.77	0.82	0.71	0.67
2.21	2.88	3.18	3.05	1.64	3.43	3.41	3.60	3.40	3.65	3.13	3.05	2.98
5.87	6.84	7.22	6.62	4.09	6.77	6.97	7.18	6.53	7.13	6.21	5.81	5.29
0.46	0.40	0.46	0.50	0.45	0.50	0.41	0.53	0.49	0.42	0.45	0.45	0.40
0.54	0.77	1.06	1.14	0.75	1.08	1.67	2.01	1.88	2.68	3.49	4.57	5.49
0.45	0.73	0.78	0.79	0.36	0.72	0.74	0.86	0.65	0.92	0.89	1.12	1.00
0.55	0.57	0.62	0.61	0.43	0.64	0.67	0.66	0.67	0.65	0.65	0.68	0.61
0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03
0.06	0.07	0.11	0.14	0.09	0.19	0.32	0.37	0.46	0.68	1.10	1.49	1.92
0.35	0.36	0.34	0.41	0.33	0.41	0.43	0.43	0.48	0.44	0.50	0.56	0.55
0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
0.48	0.43	0.49	0.56	0.41	0.59	0.58	0.53	0.64	0.71	0.74	0.77	0.84
0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01	0.02	0.01	0.01
0.04	0.04	0.03	0.04	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04	0.05	0.05	0.03	0.04
0.20	0.23	0.28	0.27	0.22	0.26	0.26	0.21	0.24	0.26	0.27	0.26	0.30
0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02
0.49	0.47	0.54	0.55	0.36	0.37	0.35	0.31	0.22	0.20	0.13	0.08	0.05

10月				11月					12月				平均
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
0.06	0.07	0.10	0.10	0.13	0.14	0.18	0.16	0.20	0.34	0.46	0.76	0.89	4.48
1.18	1.23	1.31	1.52	1.50	1.74	2.14	2.12	2.33	2.37	2.20	1.83	1.04	0.72
0.25	0.26	0.31	0.33	0.35	0.39	0.48	0.46	0.57	0.64	0.69	0.65	0.33	0.43
1.80	1.72	2.19	2.28	2.29	2.59	2.77	2.34	3.12	3.34	3.54	3.12	1.30	2.40
3.28	3.30	4.34	5.08	5.75	6.91	7.21	6.47	8.69	10.17	10.71	10.12	4.53	5.92
0.27	0.33	0.35	0.41	0.44	0.55	0.61	0.65	0.74	0.70	0.87	0.77	0.48	0.46
1.74	1.09	0.84	0.65	0.52	0.37	0.39	0.27	0.23	0.18	0.13	0.11	0.04	2.29
0.44	0.40	0.51	0.47	0.59	0.59	0.78	0.61	0.79	0.80	0.72	0.83	0.32	0.59
0.48	0.46	0.51	0.52	0.50	0.52	0.53	0.45	0.48	0.46	0.43	0.39	0.21	0.51
0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02
0.27	0.14	0.11	0.10	0.06	0.06	0.07	0.05	0.05	0.04	0.04	0.03	0.01	0.59
0.58	0.56	0.68	0.55	0.65	0.70	0.68	0.76	0.81	0.85	0.94	0.88	0.55	0.49
0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
0.92	0.81	0.95	0.88	0.76	0.83	0.89	0.85	0.84	0.81	0.85	0.87	0.40	0.69
0.02	0.01	0.02	0.01	0.03	0.02	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
0.04	0.04	0.03	0.05	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04	0.03	0.02	0.04
0.73	0.64	0.77	0.69	0.69	0.77	0.73	0.68	0.86	0.84	0.79	0.68	0.45	0.41
0.03	0.01	0.02	0.03	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.01	0.02
0.02	0.02	0.02	0.03	0.07	0.03	0.04	0.05	0.07	0.08	0.10	0.10	0.09	0.17

平成 27 年 感染症別・週別報告状況 (大阪府内集計)

	月	1月					2月				3月				
	週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
定点数	＊1インフルエンザ	307	308	308	308	308	308	308	306	306	306	306	307	307	305
	＊2小児科	201	201	201	201	201	201	201	199	199	198	198	199	199	197
	＊3眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
疾患名	＊4基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
＊1	インフルエンザ	5,778	8,880	8,340	8,878	6,174	3,967	2,343	1,509	1,128	892	832	846	614	540
＊2	RSウイルス感染症	203	396	224	204	246	252	202	161	150	104	108	103	87	81
	咽頭結膜熱	17	62	28	43	56	50	52	74	46	60	53	54	60	64
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	100	319	331	426	492	467	395	489	532	555	534	524	524	359
	感染性胃腸炎	445	1,156	1,083	1,315	1,268	1,210	1,314	1,348	1,728	1,813	1,744	1,511	1,302	1,239
	水痘	98	235	88	132	105	88	120	85	116	96	124	111	133	113
	手足口病	11	40	45	56	99	111	106	73	115	144	188	194	252	189
	伝染性紅斑	8	48	37	55	44	40	41	28	40	39	59	55	61	70
	突発性発しん	27	95	82	77	86	72	81	76	93	99	84	93	116	94
	百日咳	0	9	2	3	4	3	1	3	2	5	1	1	4	1
	ヘルパンギーナ	1	2	2	4	4	7	6	5	3	4	7	8	5	4
	流行性耳下腺炎	17	52	20	34	52	37	30	31	42	40	48	49	34	54
＊3	急性出血性結膜炎	0	1	1	0	0	0	1	3	1	0	1	0	2	2
	流行性角結膜炎	5	14	8	6	10	12	8	13	8	5	7	10	8	15
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）		932	2,429	1,951	2,355	2,466	2,349	2,357	2,389	2,876	2,964	2,958	2,713	2,588	2,285
＊4	細菌性髄膜炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0
	マイコプラズマ肺炎	0	3	2	6	4	2	4	8	5	6	5	5	10	2
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	2	2	4	2	3	14	15	9	16	13	18	12	23
合計（細菌性髄膜炎～ロタウイルス）		2	5	5	10	6	5	18	23	14	22	21	25	24	25

	月	7月				8月					9月			
	週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
定点数	＊1インフルエンザ	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308
	＊2小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
	＊3眼科	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
疾患名	＊4基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
＊1	インフルエンザ	9	12	7	8	5	8	4	7	7	6	7	5	8
＊2	RSウイルス感染症	15	3	3	13	18	28	43	70	108	162	183	149	176
	咽頭結膜熱	122	90	98	108	115	83	120	108	114	99	97	58	73
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	497	458	329	313	281	176	198	232	273	266	297	172	301
	感染性胃腸炎	971	856	673	818	668	474	642	655	739	750	738	464	773
	水痘	83	105	89	71	87	70	64	58	50	66	85	70	95
	手足口病	1,812	2,554	2,234	2,258	1,977	1,121	977	914	769	624	537	320	276
	伝染性紅斑	232	204	134	131	136	127	79	120	97	87	84	68	86
	突発性発しん	120	103	135	118	111	90	95	131	120	112	102	82	104
	百日咳	3	2	6	5	7	0	2	4	6	5	8	2	6
	ヘルパンギーナ	346	514	448	557	494	364	248	228	199	150	132	69	73
	流行性耳下腺炎	110	89	100	94	54	69	77	78	76	66	85	84	104
＊3	急性出血性結膜炎	0	0	1	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	22	18	29	38	21	22	44	35	40	35	35	16	28
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）		4,333	4,996	4,279	4,526	3,971	2,625	2,589	2,633	2,592	2,422	2,383	1,554	2,095
＊4	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	2	1	1	2	3	0	0	4	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎	4	11	15	21	20	23	21	22	17	20	20	17	32
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	3	0	1	2	1	1	0	1	0	2	0	0
～ロタウイルス）		5	15	17	23	23	27	26	22	20	24	22	17	35

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
373	441	464	342	148	100	68	56	25	17	8	6	8
57	68	65	46	27	19	16	14	12	10	10	12	7
32	70	95	111	57	115	94	169	131	138	164	161	138
418	525	645	686	315	670	671	724	658	746	636	637	557
1,266	1,449	1,521	1,459	939	1,378	1,365	1,473	1,404	1,529	1,433	1,242	1,092
115	111	100	106	117	69	96	85	86	69	88	121	104
281	477	566	580	360	388	602	660	587	876	1,098	1,139	1,402
81	113	134	91	55	94	122	166	103	170	138	203	219
125	99	123	123	117	137	138	121	142	119	156	142	139
2	2	5	4	0	3	4	6	6	8	9	7	12
10	11	24	28	16	29	43	65	59	105	165	192	314
38	58	63	51	40	64	57	72	78	83	81	88	95
1	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	0	0
9	11	16	17	8	20	22	23	27	20	28	18	25
2,435	2,994	3,357	3,304	2,051	2,988	3,231	3,578	3,294	3,873	4,007	3,962	4,104
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
1	4	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	1
6	3	3	8	11	8	7	8	6	11	12	7	7
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
18	16	17	17	10	9	5	8	4	6	1	1	0
25	24	20	26	21	19	12	17	10	18	16	8	8

10月				11月					12月				合計
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	16,297
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	10,596
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,741
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	901
16	11	33	12	17	29	22	27	41	56	123	189	232	53,678
271	340	383	359	367	539	594	724	809	738	786	564	267	10,596
53	65	71	73	76	86	100	94	91	120	150	123	59	4,640
297	314	383	349	358	404	443	401	532	526	649	491	206	23,081
766	752	936	1,113	1,350	1,695	1,750	1,614	2,036	2,019	1,905	1,714	687	63,584
68	94	97	106	93	145	141	158	153	162	174	132	107	5,534
163	100	56	38	29	28	14	13	8	14	13	8	4	27,500
72	101	99	92	110	118	188	128	158	140	112	153	39	5,409
97	99	103	103	112	113	96	103	88	96	79	88	35	5,491
5	3	4	1	5	6	6	9	3	4	5	3	2	219
38	22	16	15	3	10	12	6	7	7	6	5	4	5,096
80	80	122	80	89	127	80	92	94	116	147	105	55	3,761
1	1	2	2	2	1	0	0	1	0	2	1	2	42
23	23	23	25	29	26	20	29	19	19	30	27	4	1,053
1,934	1,994	2,295	2,356	2,623	3,298	3,444	3,371	3,999	3,961	4,058	3,414	1,471	156,006
0	1	0	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	16
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	35
25	19	27	30	14	10	18	8	18	14	28	13	14	640
0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9
0	0	4	1	3	2	0	1	6	10	4	1	2	293
26	21	34	34	17	12	20	10	25	24	34	15	16	993

平成 27 年感染症別・週別定点あたり報告状況 (大阪府内集計)

	月	1月					2月				3月				
	週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
	定点数 ＊1インフルエンザ	307	308	308	308	308	308	308	306	306	306	306	307	307	305
	＊2小児科	201	201	201	201	201	201	201	199	199	198	198	199	199	197
	＊3眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	疾患名 ＊4基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
＊1	インフルエンザ	18.82	28.83	27.08	28.82	20.05	12.88	7.61	4.93	3.69	2.92	2.72	2.76	2.00	1.77
＊2	RSウイルス感染症	1.01	1.97	1.11	1.01	1.22	1.25	1.00	0.81	0.75	0.53	0.55	0.52	0.44	0.41
	咽頭結膜熱	0.08	0.31	0.14	0.21	0.28	0.25	0.26	0.37	0.23	0.30	0.27	0.27	0.30	0.32
	Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.50	1.59	1.65	2.12	2.45	2.32	1.97	2.46	2.67	2.80	2.70	2.63	2.63	1.82
	感染性胃腸炎	2.21	5.75	5.39	6.54	6.31	6.02	6.54	6.77	8.68	9.16	8.81	7.59	6.54	6.29
	水痘	0.49	1.17	0.44	0.66	0.52	0.44	0.60	0.43	0.58	0.48	0.63	0.56	0.67	0.57
	手足口病	0.05	0.20	0.22	0.28	0.49	0.55	0.53	0.37	0.58	0.73	0.95	0.97	1.27	0.96
	伝染性紅斑	0.04	0.24	0.18	0.27	0.22	0.20	0.20	0.14	0.20	0.20	0.30	0.28	0.31	0.36
	突発性発しん	0.13	0.47	0.41	0.38	0.43	0.36	0.40	0.38	0.47	0.50	0.42	0.47	0.58	0.48
	百日咳	0.00	0.04	0.01	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01
	ヘルパンギーナ	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.04	0.04	0.03	0.02
	流行性耳下腺炎	0.08	0.26	0.10	0.17	0.26	0.18	0.15	0.16	0.21	0.20	0.24	0.25	0.17	0.27
＊3	急性出血性結膜炎	0.00	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.06	0.02	0.00	0.02	0.00	0.04	0.04
	流行性角結膜炎	0.10	0.27	0.15	0.12	0.19	0.23	0.15	0.25	0.15	0.10	0.13	0.19	0.15	0.29
＊4	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.06	0.06	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.00	0.18	0.12	0.35	0.24	0.12	0.24	0.47	0.29	0.35	0.29	0.29	0.59	0.12
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.12	0.12	0.12	0.24	0.12	0.18	0.82	0.88	0.53	0.94	0.76	1.06	0.71	1.35

	月	7月				8月					9月			
	週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
	定点数 ＊1インフルエンザ	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308
	＊2小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
	＊3眼科	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	疾患名 ＊4基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
＊1	インフルエンザ	0.03	0.04	0.02	0.03	0.02	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
＊2	RSウイルス感染症	0.08	0.02	0.02	0.07	0.09	0.14	0.22	0.35	0.54	0.81	0.92	0.75	0.88
	咽頭結膜熱	0.61	0.45	0.49	0.54	0.58	0.42	0.60	0.54	0.57	0.50	0.49	0.29	0.37
	Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.49	2.29	1.65	1.57	1.41	0.88	0.99	1.16	1.37	1.33	1.49	0.86	1.51
	感染性胃腸炎	4.86	4.28	3.37	4.09	3.34	2.37	3.21	3.28	3.70	3.75	3.69	2.32	3.87
	水痘	0.42	0.53	0.45	0.36	0.44	0.35	0.32	0.29	0.25	0.33	0.43	0.35	0.48
	手足口病	9.06	12.77	11.17	11.29	9.89	5.61	4.89	4.57	3.85	3.12	2.69	1.60	1.38
	伝染性紅斑	1.16	1.02	0.67	0.66	0.68	0.64	0.40	0.60	0.49	0.44	0.42	0.34	0.43
	突発性発しん	0.60	0.52	0.68	0.59	0.56	0.45	0.48	0.66	0.60	0.56	0.51	0.41	0.52
	百日咳	0.02	0.01	0.03	0.03	0.04	0.00	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.01	0.03
	ヘルパンギーナ	1.73	2.57	2.24	2.79	2.47	1.82	1.24	1.14	1.00	0.75	0.66	0.35	0.37
	流行性耳下腺炎	0.55	0.45	0.50	0.47	0.27	0.35	0.39	0.39	0.38	0.33	0.43	0.42	0.52
＊3	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.02	0.04	0.04	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	0.43	0.35	0.56	0.73	0.40	0.42	0.85	0.67	0.77	0.67	0.67	0.31	0.54
＊4	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.12	0.06	0.06	0.12	0.18	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00	0.12
	マイコプラズマ肺炎	0.24	0.65	0.88	1.24	1.18	1.35	1.24	1.29	1.00	1.18	1.18	1.00	1.88
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.06	0.18	0.00	0.06	0.12	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.00

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308	308
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
1.21	1.43	1.51	1.11	0.48	0.32	0.22	0.18	0.08	0.06	0.03	0.02	0.03
0.29	0.34	0.33	0.23	0.14	0.10	0.08	0.07	0.06	0.05	0.05	0.06	0.04
0.16	0.35	0.48	0.56	0.29	0.58	0.47	0.85	0.66	0.69	0.82	0.81	0.69
2.09	2.63	3.23	3.43	1.58	3.35	3.36	3.62	3.29	3.73	3.18	3.19	2.79
6.33	7.25	7.61	7.30	4.70	6.89	6.83	7.37	7.02	7.65	7.17	6.21	5.46
0.58	0.56	0.50	0.53	0.59	0.35	0.48	0.43	0.43	0.35	0.44	0.61	0.52
1.41	2.39	2.83	2.90	1.80	1.94	3.01	3.30	2.94	4.38	5.49	5.70	7.01
0.41	0.57	0.67	0.46	0.28	0.47	0.61	0.83	0.52	0.85	0.69	1.02	1.10
0.63	0.50	0.62	0.62	0.59	0.69	0.69	0.61	0.71	0.60	0.78	0.71	0.70
0.01	0.01	0.03	0.02	0.00	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.06
0.05	0.06	0.12	0.14	0.08	0.15	0.22	0.33	0.30	0.53	0.83	0.96	1.57
0.19	0.29	0.32	0.26	0.20	0.32	0.29	0.36	0.39	0.42	0.41	0.44	0.48
0.02	0.00	0.00	0.04	0.00	0.04	0.02	0.00	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00
0.18	0.22	0.31	0.33	0.16	0.39	0.43	0.45	0.53	0.39	0.55	0.35	0.49
0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00
0.06	0.24	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06
0.35	0.18	0.18	0.47	0.65	0.47	0.41	0.47	0.35	0.65	0.71	0.41	0.41
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00
1.06	0.94	1.00	1.00	0.59	0.53	0.29	0.47	0.24	0.35	0.06	0.06	0.00

10月				11月					12月				平均
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	16,297
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	10,596
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,741
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	901
0.05	0.04	0.11	0.04	0.06	0.09	0.07	0.09	0.13	0.18	0.40	0.62	0.76	3.29
1.36	1.70	1.92	1.80	1.84	2.70	2.97	3.62	4.05	3.69	3.93	2.82	1.34	1.00
0.27	0.33	0.36	0.37	0.38	0.43	0.50	0.47	0.46	0.60	0.75	0.62	0.30	0.44
1.49	1.57	1.92	1.75	1.79	2.02	2.22	2.01	2.66	2.63	3.25	2.46	1.03	2.18
3.83	3.76	4.68	5.57	6.75	8.48	8.75	8.07	10.18	10.10	9.53	8.57	3.44	6.00
0.34	0.47	0.49	0.53	0.47	0.73	0.71	0.79	0.77	0.81	0.87	0.66	0.54	0.52
0.82	0.50	0.28	0.19	0.15	0.14	0.07	0.07	0.04	0.07	0.07	0.04	0.02	2.60
0.36	0.51	0.50	0.46	0.55	0.59	0.94	0.64	0.79	0.70	0.56	0.77	0.20	0.51
0.49	0.50	0.52	0.52	0.56	0.57	0.48	0.52	0.44	0.48	0.40	0.44	0.18	0.52
0.03	0.02	0.02	0.01	0.03	0.03	0.03	0.05	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02
0.19	0.11	0.08	0.08	0.02	0.05	0.06	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02	0.48
0.40	0.40	0.61	0.40	0.45	0.64	0.40	0.46	0.47	0.58	0.74	0.53	0.28	0.35
0.02	0.02	0.04	0.04	0.04	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.04	0.02	0.04	0.02
0.44	0.44	0.44	0.48	0.56	0.50	0.38	0.56	0.37	0.37	0.58	0.52	0.08	0.38
0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.00	0.12	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
0.06	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.04
1.47	1.12	1.59	1.76	0.82	0.59	1.06	0.47	1.06	0.82	1.65	0.76	0.82	0.71
0.00	0.06	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.01
0.00	0.00	0.24	0.06	0.18	0.12	0.00	0.06	0.35	0.59	0.24	0.06	0.12	0.33

平成 27 年 感染症別・ブロック別報告状況 (大阪府内集計)

ブロック名		01 豊能	02 三島	03 北河内	04 中河内	05 南河内	06 堺市	07 泉州	08 大阪市北部	09 大阪市西部	10 大阪市東部	11 大阪市南部	合 計
定点数	＊1インフルエンザ	1,961	1,312	2,331	1,643	1,272	1,484	1,854	1,060	795	1,165	1,420	16,297
	＊2小児科	1,219	848	1,440	1,060	848	1,007	1,165	742	530	794	943	10,596
	＊3眼科	265	212	318	265	212	265	303	265	106	318	212	2,741
疾患名	＊4基幹	106	106	106	106	53	106	106	53	53	53	53	901
＊1	インフルエンザ	5,471	3,243	8,102	4,770	6,026	4,390	5,934	4,039	4,861	3,484	3,358	53,678
＊2	RSウイルス感染症	956	412	1,613	1,288	1,427	627	1,135	1,089	756	596	697	10,596
	咽頭結膜熱	373	312	797	504	510	212	581	314	257	333	447	4,640
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2,691	858	3,209	2,796	2,576	2,157	2,821	1,304	897	1,413	2,359	23,081
	感染性胃腸炎	5,967	4,622	10,898	9,356	7,787	3,041	9,132	3,825	3,021	2,704	3,231	63,584
	水痘	511	477	745	677	525	388	484	651	365	277	434	5,534
	手足口病	2,201	1,602	5,013	3,347	3,586	1,745	3,615	2,158	1,055	1,229	1,949	27,500
	伝染性紅斑	596	162	872	924	499	544	825	234	130	250	373	5,409
	突発性発しん	540	234	908	779	648	277	702	422	266	317	398	5,491
	百日咳	33	3	22	16	22	12	45	13	19	28	6	219
	ヘルパンギーナ	457	417	852	533	407	343	476	578	345	251	437	5,096
	流行性耳下腺炎	120	86	364	731	666	135	258	374	334	75	618	3,761
＊3	急性出血性結膜炎	1	0	3	9	2	2	9	10	2	2	2	42
	流行性角結膜炎	71	99	55	63	58	114	264	76	34	89	130	1,053
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）		14,517	9,284	25,351	21,023	18,713	9,597	20,347	11,048	7,481	7,564	11,081	156,006
＊4	細菌性髄膜炎	0	2	1	0	2	7	1	0	2	0	1	16
	無菌性髄膜炎	10	5	0	1	3	12	0	0	0	2	2	35
	マイコプラズマ肺炎	25	187	25	51	15	95	57	0	1	93	91	640
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	1	0	0	0	0	3	0	0	3	2	0	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	40	19	16	34	70	28	37	14	0	35	0	293
合計（細菌性髄膜炎～ロタウイルス）		76	213	42	86	90	145	95	14	6	132	94	993
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	75	69	33	20	344	44	99	43	15	0	48	790
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	22	2	0	6	14	16	0	0	9	0	0	69
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0	0	0	6	5	0	0	0	0	12
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症～薬剤耐性アシネトバクター感染症）		97	72	33	26	358	66	104	43	24	0	48	871

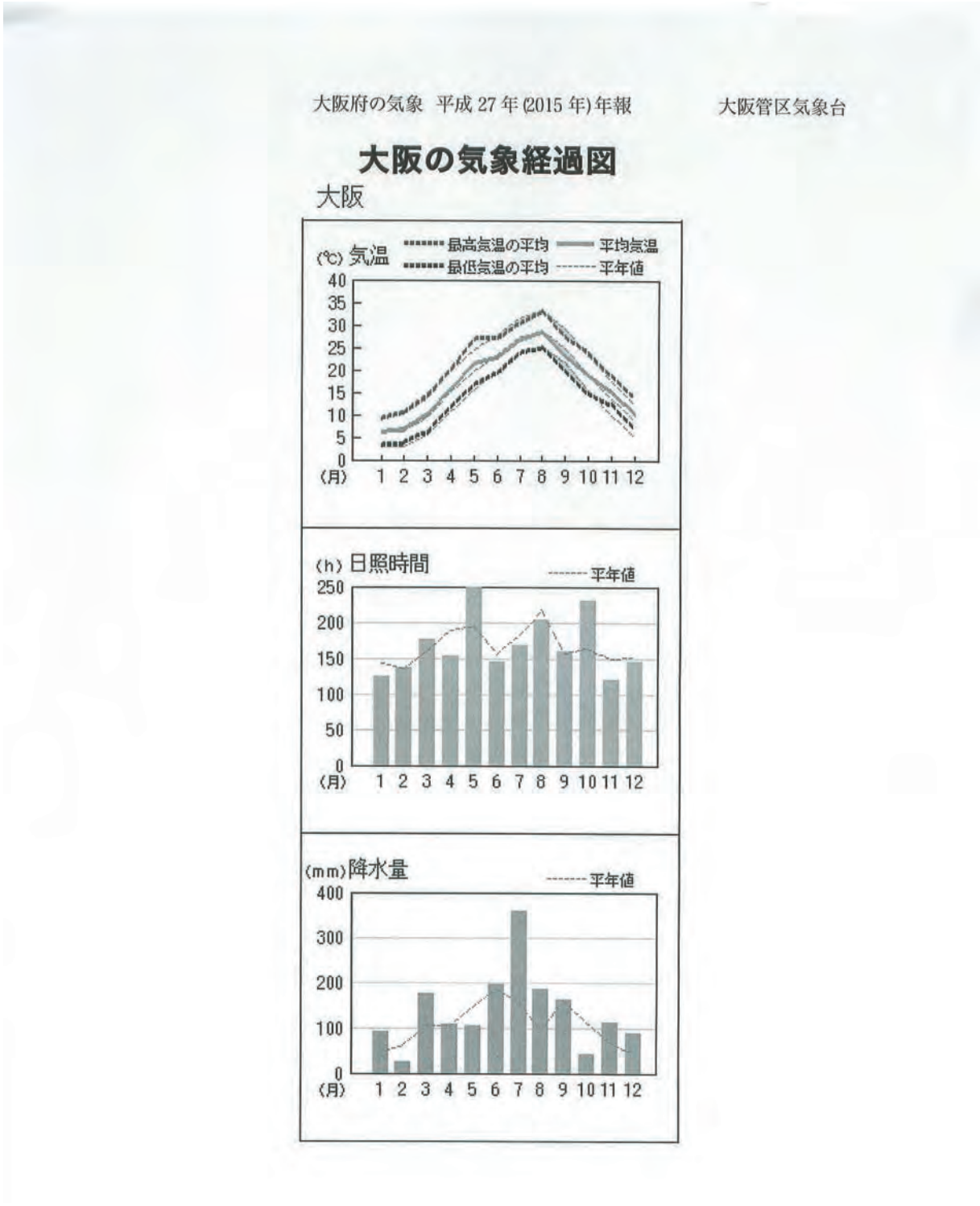
平成 27 年 感染症別・年齢別報告状況 (大阪府内集計)

年齢区分 / 疾病名	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から29歳	30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から59歳	60歳から	合計
インフルエンザ	329	782	2,634	2,795	2,891	3,243	3,601	3,694	3,175	2,821	2,467	8,227	2,135	14,884					53,678
RSウイルス感染症	2,068	2,293	3,342	1,582	734	327	128	51	18	9	9	15	1	19					10,596
咽頭結膜熱	26	382	1,149	605	680	579	428	233	136	124	70	130	19	79					4,640
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	90	206	1,057	1,641	2,489	3,161	3,179	2,726	2,041	1,621	1,300	2,384	225	961					23,081
感染性胃腸炎	593	4,013	9,863	7,419	6,390	5,907	5,001	3,987	3,150	2,432	2,051	5,229	1,287	6,262					63,584
水痘	68	231	613	673	749	845	700	547	366	275	180	220	20	47					5,534
手足口病	245	2,218	7,824	5,620	4,131	2,778	1,808	1,032	632	373	222	366	43	208					27,500
伝染性紅斑	3	64	246	378	602	855	916	801	536	400	242	293	8	65					5,409
突発性発しん	89	2,070	2,679	505	101	25	10	7	2	1	2	0	0	0					5,491
百日咳	41	12	12	13	3	7	7	10	9	14	9	33	7	42					219
ヘルパンギーナ	50	531	1,407	1,004	708	483	307	164	109	56	43	81	16	137					5,096
流行性耳下腺炎	0	9	109	273	458	661	690	505	343	207	162	266	28	50					3,761
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	1	35					42
流行性角結膜炎	10	9	29	28	29	38	40	20	15	16	11	35	39	734					1,053
合計（RSウイルス感染症～流行性角結膜炎）	3,283	12,038	28,330	19,741	17,076	15,667	13,215	10,083	7,359	5,528	4,301	9,052	1,694	8,639					156,006
細菌性髄膜炎	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	6	16
無菌性髄膜炎	1	1	1	0	0	1	0	2	0	0	1	2	2	6	7	2	6	3	35
マイコプラズマ肺炎	8	3	8	25	51	45	56	62	72	72	52	121	27	15	8	9	1	5	640
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	1	1	9
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	24	16	69	45	49	33	21	13	9	1	5	6	0	0	0	0	0	2	293
合計｛細菌性髄膜炎～感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝	37	20	78	70	101	80	78	77	81	74	58	132	29	21	17	14	9	17	993
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20	5	13	7	10	3	5	4	1	2	9	8	7	14	19	26	53	584	790
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	2	9	5	5	1	5	3	1	1	0	1	0	0	0	0	2	31	69
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	6	12
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計（ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ブドウ球菌感染症～薬剤耐性アシネトバクター感染症）	24	7	22	12	15	4	10	7	2	3	9	9	8	14	20	27	57	621	871

ブロック別人口動態・ブロック地図

ブロック	市町村区分	定点数	人口	出生数
①豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、能勢町、豊能町	内科 14　小児科 23　眼科 5　STD 8　基幹 2　疑似 50	1,029,975	8,829
②三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	内科8　小児科 17　眼科 4　STD 5　基幹 2　疑似 31	748,497	6,556
③北河内	守口市、寝屋川市、門真市、枚方市、大東市、四條畷市、交野市	内科 17　小児科 27　眼科 6　STD 9　基幹 2　疑似 59	1,169,572	8,684
④中河内	八尾市、柏原市、東大阪市	内科 11　小児科 20　眼科 5　STD 7　基幹 2　疑似 45	846,049	5,981
⑤南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村	内科 8　小児科 16　眼科 4　STD 5　基幹 2　疑似 34	619,508	4,179
⑥堺市	堺市	内科 9　小児科 19　眼科 5　STD 6　基幹 2　疑似 46	840,016	6,859
⑦泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、熊取町、岬町	内科 13　小児科 22　眼科 6　STD 5　基幹 2　疑似 46	910,744	6,940
⑧大阪市北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	内科 6　小児科 14　眼科 5　STD 8　基幹 1　疑似 36	665,305	5,787
⑨大阪市西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	内科 5　小児科 10　眼科 2　STD 3　基幹 1　疑似 24	473,311	4,356
⑩大阪市東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	内科 7　小児科 15　眼科 6　STD 4　基幹 1　疑似 37	716,963	6,579
⑪大阪市南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	内科 9　小児科 18　眼科 4　STD 5　基幹 1　疑似 46	830,667	6,088
合　　計		内科 107　小児科 201　眼科 52　STD 65　基幹 18　疑似 454	8,850,607	70,838

〈参　考〉 大阪の気象



大阪管区気象台平成 27 年 (2015) 年報「大阪府の気象」より引用

2．各感染症状況報告

1）インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

平成 27（2015）年のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2014/2015 シーズンを、第 36 週以降は 2015/2016 シーズンを反映したものである。同年の大阪府内のインフルエンザ定点からの累積患者報告数は 53,616（定点当たり累積報告数:174.64）であり、前年の累積患者報告数 95,872（定点当たり累積報告数：313.31）よりも大幅に減少した。これは 2014/2015 シーズンの流行の立ち上がりが全国的に早く、大阪府ではまだ 11 月中であった平成 26 年第 48 週に定点当たり報告数が 1.00 を超えて流行が開始となり、第 52 週には早くも定点当たり報告数が 34.32 と同シーズンの最高値を記録した一方で、平成 27 年に入ってからは第 4 週の定点当たり報告数が 28.05 となったものの、その後比較的早期に減少していったことが影響している。また一方で、2015/2016 シーズンのインフルエンザの流行は立ち上がりが遅く、大阪府の定点当たり報告数が 12 月中に 1.00 を超えていなかったことも無視はできないと思われる。

前述したように、2014/2015 シーズンは立ち上がりが早く、インフルエンザの定点当たり報告数が 1.00 を超えたのは全国平均値も大阪府も共に 2014 年第 48 週であったが、その後大阪府の報告数は急増して第 52 週にピークとなったが、その値は全国平均値（26.72）を大幅に上回り、同時期の 47 都道府県の定点当たり報告数の中でも最多であった。同シーズンの全国のインフルエンザの流行のピークは 2015 年第 4 週であったが、大阪府は 12 月末に記録した報告数を 1 月以降に超えることはできず、12 月中に流行のピークを迎えるという珍しい流行形態となった。

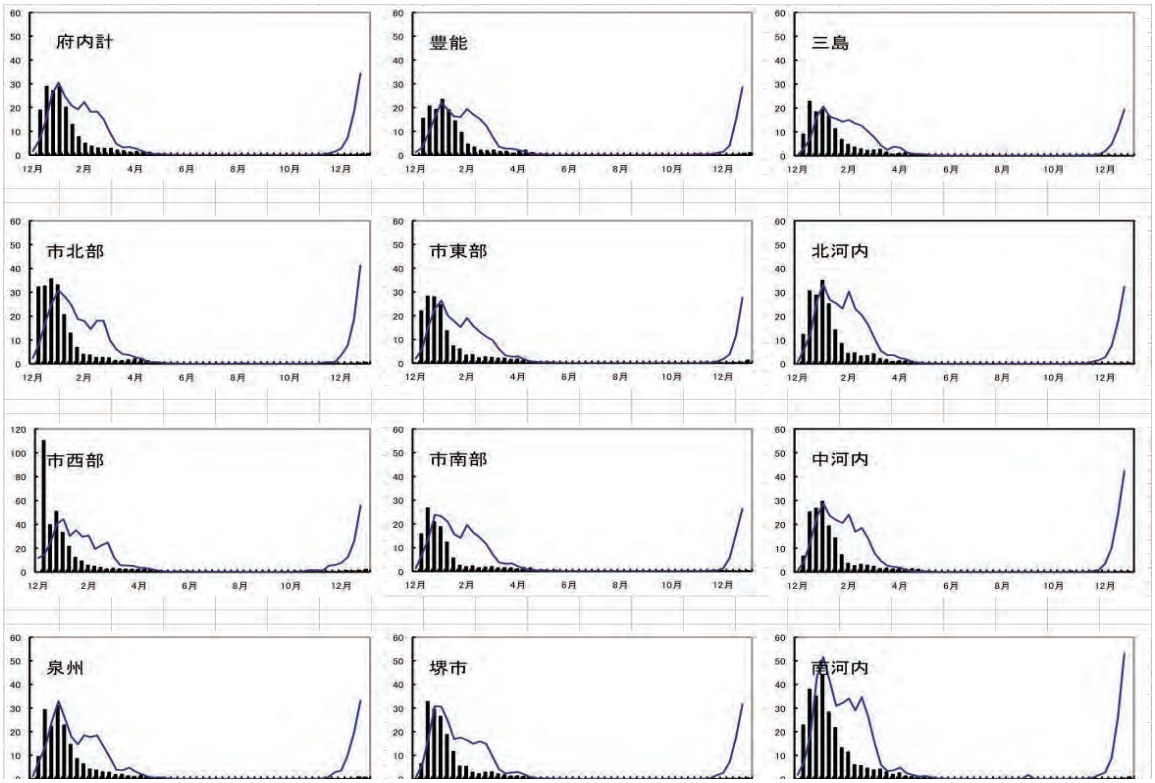
20014/2015 シーズンのインフルエンザウイルスの検出状況をみると（http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/5899-iasrgv1415.html）、大阪府では同シーズン中に検出された 259 株中 AH1pdm09 は 0 株（0.0%）、AH3 亜型は 225 株（86.9%）、B 型は 34 株（13.1%）であり、AH3 が大半を占めていた。これは同シーズンの全国のインフルエンザウイルスの検出割合（総検出株数 6155、AH1pdm09 は 1.0%、AH3 亜型 84.9%、B 型 14.1%）と類似しており、全国の流行状況が大阪府内でも反映されていたものと考えられる。一方、2015/2016 シーズンは 2016 年 4 月 9 日現在大阪府内の総検出株数 202 のうち AH1pdm09 は 43.1%、AH3 亜型 8.9%、B 型 48.0%と前シーズンとは異なって AH1pdm09 と B 型の混合流行となり、前シーズンは流行の主流であった AH3 は 10% にも満たない数となっている。2015 年 1 年間のインフルエンザウイルスの検出状況は、両シーズンの流行を反映しているというよりも、やはり 2015/2016 シーズン影響が大きく、総検出株数 153 のうち AH1pdm09 は 2.0%、AH3 亜型 73.9%、B 型 24.2%となっている。

大阪府立公衆衛生研究所で 2014/2015 シーズンに分離された AH3 亜型から無作為に抽出された 12 株は全てオセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルの抗インフルエンザウイルス薬に感受性を示した。また、同シーズンの最初に分離された B 型株 2 株もこの 4 つの薬剤に感受性を示した。

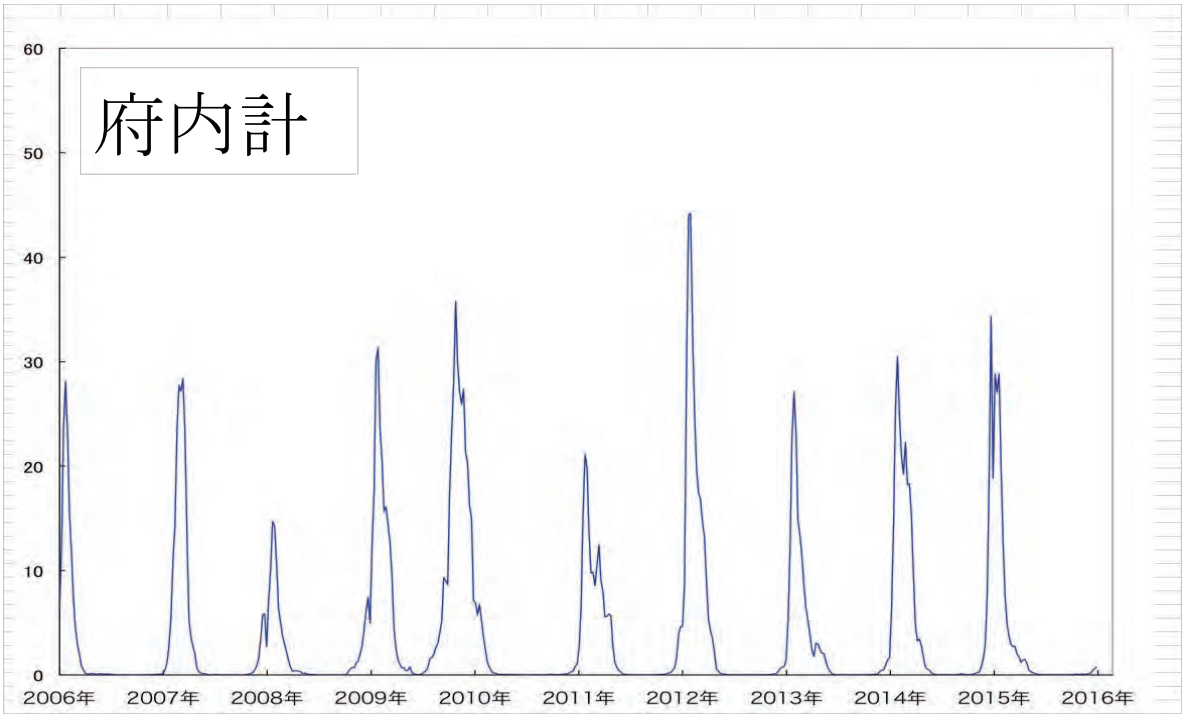
（文責：安井）

インフルエンザ

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



2）小児科定点把握疾患

●ＲＳウイルス感染症

平成 27 年ＲＳウイルス感染症の報告数は 10,596 例で、前年より 2,022 例と、23.6％増加した。小児科・眼科定点報告対象 13 疾患総報告数の 6.8％を占めている。定点あたり報告数の年平均は 1.00 で、全対象疾患中 4 位であった。全国集計の報告数は 120,049 例で、前年より 19,655 例と、19.6％増加した。総報告数の 4.9％を占め、定点あたり年平均 0.72 の報告があり、対象疾患中第 4 位であった。

大阪府における週別の定点あたり報告数は、第 1 週より 1 を超えており、第 6 週に 1.25 となった後漸減し、第 29 週に年間最低値の 0.02 となった。第 31 週以降は増加に転じ、第 41 週に 1.36、第 46 週に 2 を超え、49 週に年間最高値の 4.05 となった。

ＲＳウイルス感染症の報告数は、平成 23 年からは夏期から増加傾向がみられ、平成 26 年も第 36 週で 1 を超えたが、平成 27 年については、第 41 週で 1 を超えており、夏期の増加傾向はなく、冬期のピークがみられた。また、平成 26 年の最高値は 3.19 であったが、平成 27 年は 4.05 に増加した。全国も同じ傾向で、最高値は第 50 週の 2.37 であった。

全国の年間報告数は、平成 25 年が 96,534 例、平成 26 年は 100,394 例、さらに平成 27 年は 120,049 例と増加している。

年齢別報告例数は、0 歳児が 4,361 例で全体の 41.2％、1 歳児が 3,342 例で 31.5％と、2 歳未満で 72.7％を占めた。さらに 3 歳児まで含めると、全体の 94.6％を占めている。小児の感染症において、ＲＳウイルス感染症は、初感染が低年齢であるほど、その症状が顕著に現れ、重篤性が増す極めて重要な疾患である。今後も一年を通じた報告数の推移について、より一層の注意が必要であるとともに、パリビズマブ投与の対象となる児については、流行初期において投与を考慮されたい。

ブロック別の年間平均報告数を定点あたりで見ると、⑤南河内 1.68、⑧大阪市北部 1.47、⑨大阪市西部 1.43、④中河内 1.22、③北河内 1.12、⑦泉州 0.97、①豊能 0.78、⑩大阪市東部 0.75、⑪大阪市南部 0.73、⑥堺市 0.62、②三島 0.49 と続いた。

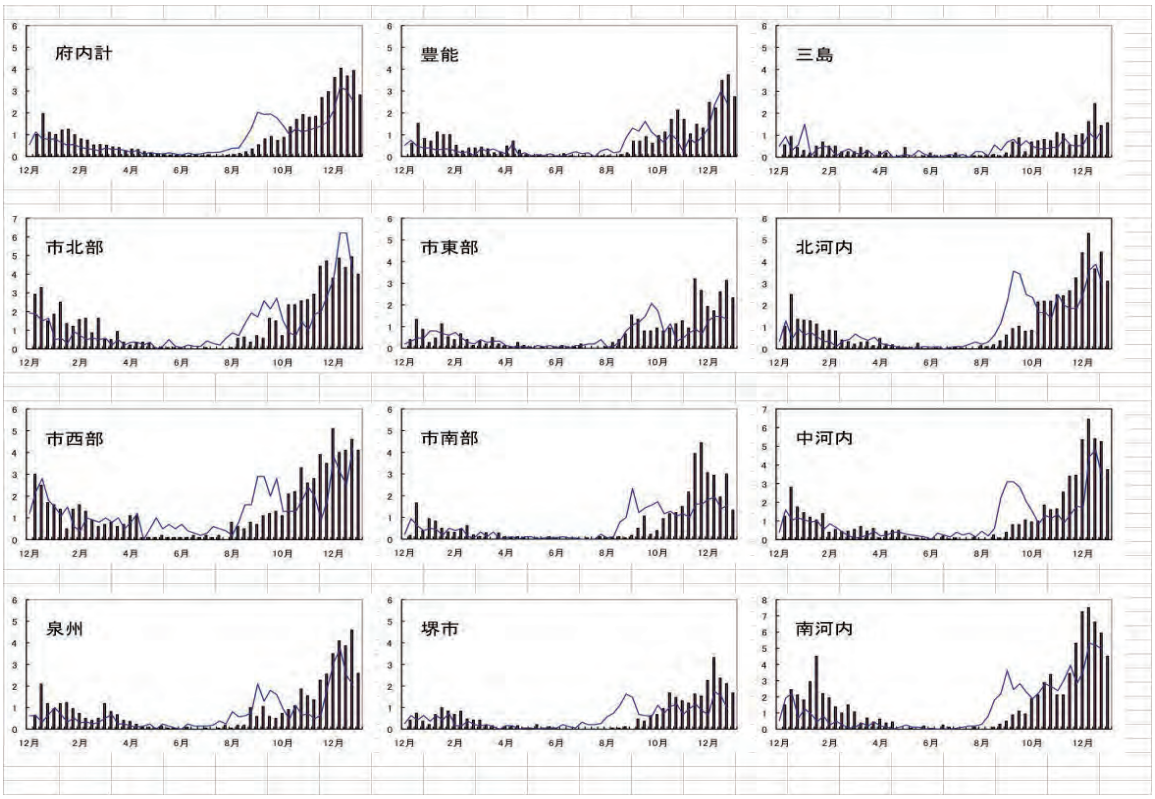
病原体定点医療機関からのＲＳウイルス検出数は、年間 73 件あった。検出数の最も多い月は 11 月の 14 件で、12 月の 13 件、10 月の 9 件と続く。年齢別検出数は、0 歳～ 3 歳児で 62 件と、年間検出数の 84.9％を占めており、同年齢報告数の比率と同様に高かった。

疾患別では、下気道炎が 43、ＲＳウイルス感染症が 15 と呼吸器系疾患が 58 件あり、年間ＲＳウイルス検出数の 79.5％を占めた。

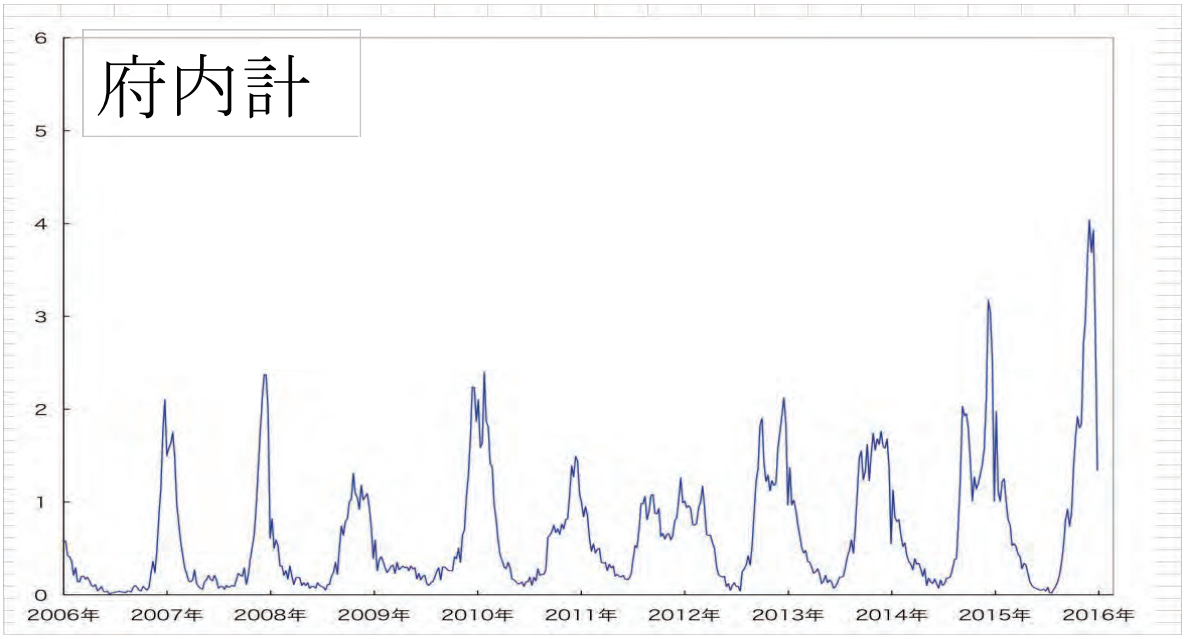
（文責：永井）

RS ウイルス感染症

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●咽頭結膜熱

平成 27 年の咽頭結膜熱の報告数は 4,640 例、平成 26 年の 5,825 例に比し、1,185 例、20.3 %の減少を示した。定点あたり報告数は平均 0.44 で、平成 26 年の定点あたり報告数 0.56 より 21.4%減少した。

平成 27 年大阪府 13 疾患総報告数 156,006 例の 3.0%を占め、多い順では第 9 位であった。平成 27 年全国の咽頭結膜熱の報告数は 72,150 例で、全国 13 疾患総報告数の第 10 位であった。

週別の定点あたり報告数では、第 17 週 (4 月) に 0.4 を、第 19 週に 0.5 を超え、第 22 週 (5 月) には 0.8 を超えて、ピークを形成した。わずかに減少して、第 25 週・第 28 週には再び 0.8 を超えた。その後わずかな増減を繰り返しながら、ゆっくりと減少していたが、第 47 週 (11 月) に 0.5 を超え、第 50 週 (12 月)0.6 を第 51 週に 0.7 を超えて、小さなピークを形成した。

月別では　6 月の 732 例が最も多く、次いで 8 月の 540 例、12 月の 452 例、11 月の 447 例、5 月の 435 例、7 月の 418 例と続く。例年は夏型感染症であるが、27 年は夏季に加えて、11 月、12 月にも多かった。

年齢別では　1 歳児の 1,149 例が最も多く、次いで 3 歳児の 680 例、2 歳児の 605 例、4 歳児の 579 例、5 歳児の 428 例、0 歳児の 408 例であった。0 歳から 5 歳までの就学前児童の報告数 3,849 例は全報告数の 83.0%を占める。乳幼児期の感染症と言える。

ブロック別では、③北河内 797 例が最も多く、次いで⑦泉州 581 例、⑤南河内 510 例、④中河内 504 例、⑪大阪市南部 447 例の順に報告数が多い。

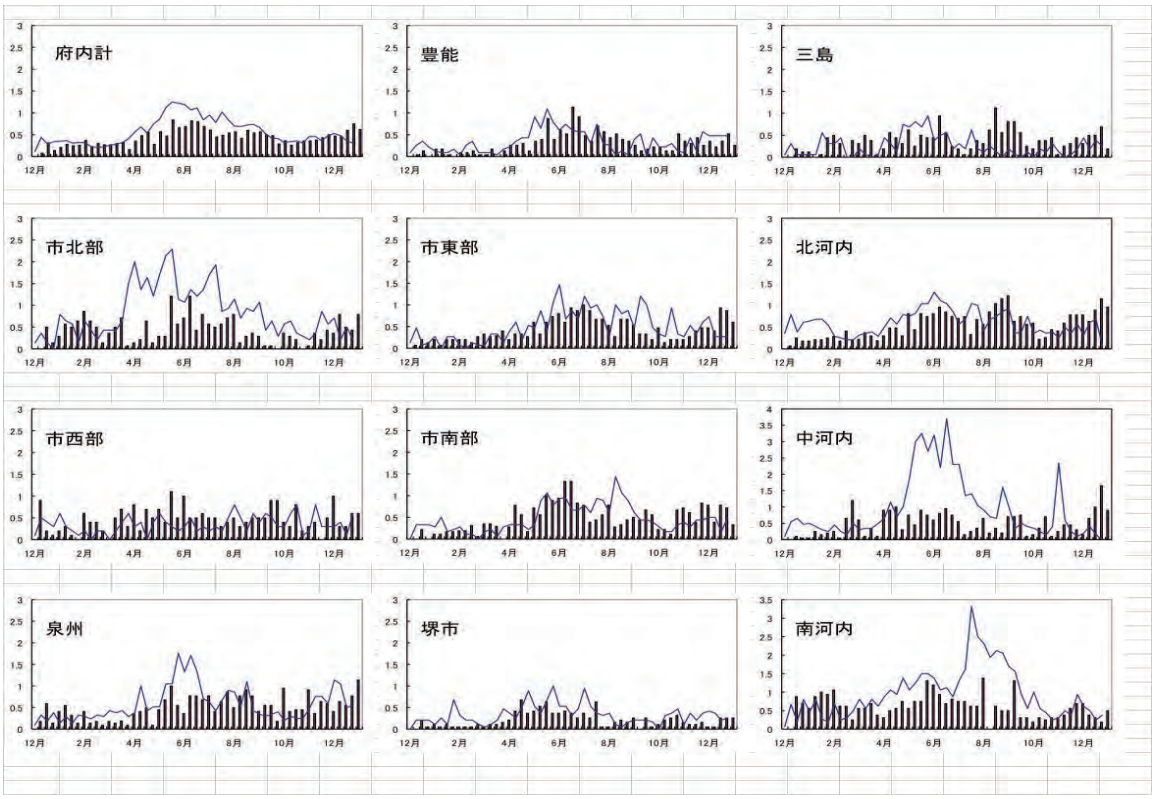
ブロック別の定点あたり報告数の年平均では⑤南河内 0.60 が最も高く、次いで③北河内 0.56、⑦泉州 0.50、④中河内・⑨大阪市西部 0.48 の順に高かった。

ウイルス検出は 64 検体中 50 検体が陽性、陽性率は 78.1%であった。検出ウイルスは多い順にアデノウイルス（Ad）3 型が 22 件、Ad 2 型が 12 件、Ad 4 型が 7 件、Ad 5 型が 3 件、ライノウイルス型不明が 2 件、Ad 型・Ad 37 型・Ad 型不明・R S ウイルス型不明が各 1 件ずつであった。

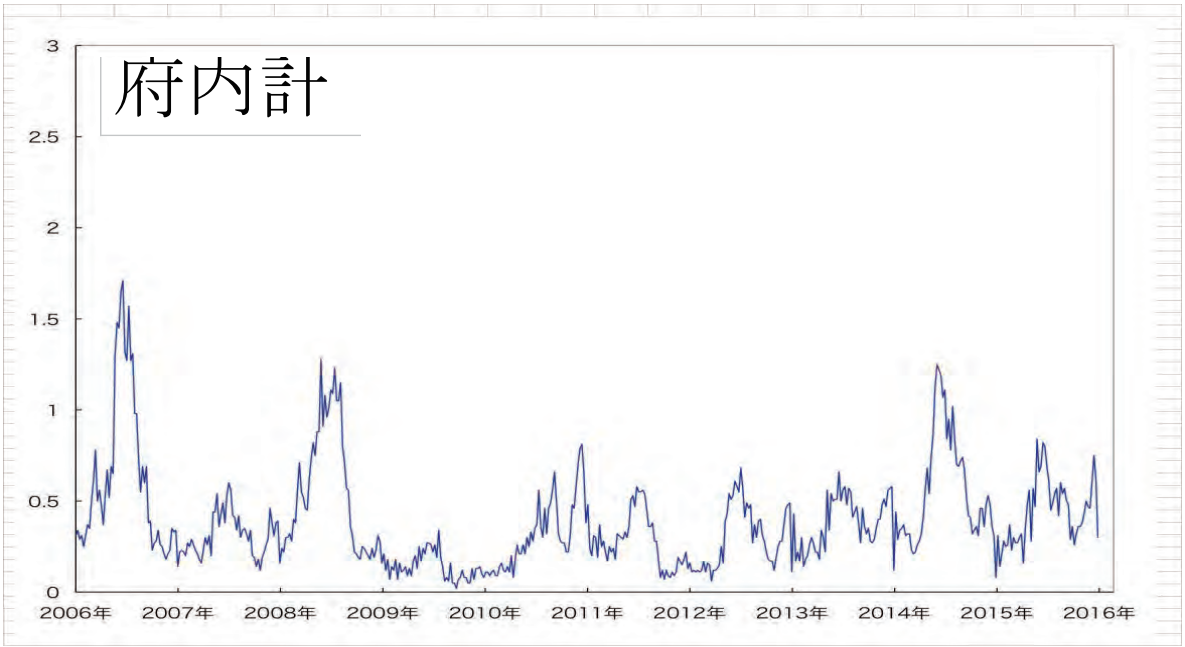
(文責：信田)

咽頭結膜熱

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平成 27 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 23,081 例で、前年比 10.9％増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 14.8％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.18 で、順位は第 3 位であった。

全国集計では 401,274 例の報告で、前年比 31.8％増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 16.5％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.04 で、順位は第 2 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 4 週から第 6 週（1 月～ 2 月）、第 8 週から第 13 週（2 月～ 3 月）、第 15 週から第 18 週（4 月）、第 20 週から第 29 週（5 月～ 7 月）、第 46 週から第 52 週(11 月～ 12 月)で 2.0 を超え、ピーク値は第 24 週 (6 月) の 3.73 であった。初夏と冬期に二峰性のピークを作る傾向は、例年と同様であった。

全国集計では、第 4 週から第 18 週（1 月～ 4 月）、第 20 週から第 29 週（5 月～ 7 月）、第 43 週から第 52 週（10 月～ 12 月）で 2.0 を超え、ピーク値は第 24 週 (6 月) の 3.65 であった。

年齢別患者発生数は、5 歳児の 3,179 例が最も多く、以下 4 歳児（3,161 例）、6 歳児（2,726 例）、3 歳児（2,489 例）と続き、3 歳児から 6 歳児で全体の 50.1％を占めた。この割合は例年とほぼ同様であった。

定点あたりの報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑤南河内（3.04）、④中河内（2.64）、⑪大阪市南部 (2.51) 、⑦泉州（2.42）、③北河内 (2.23) の順であった。

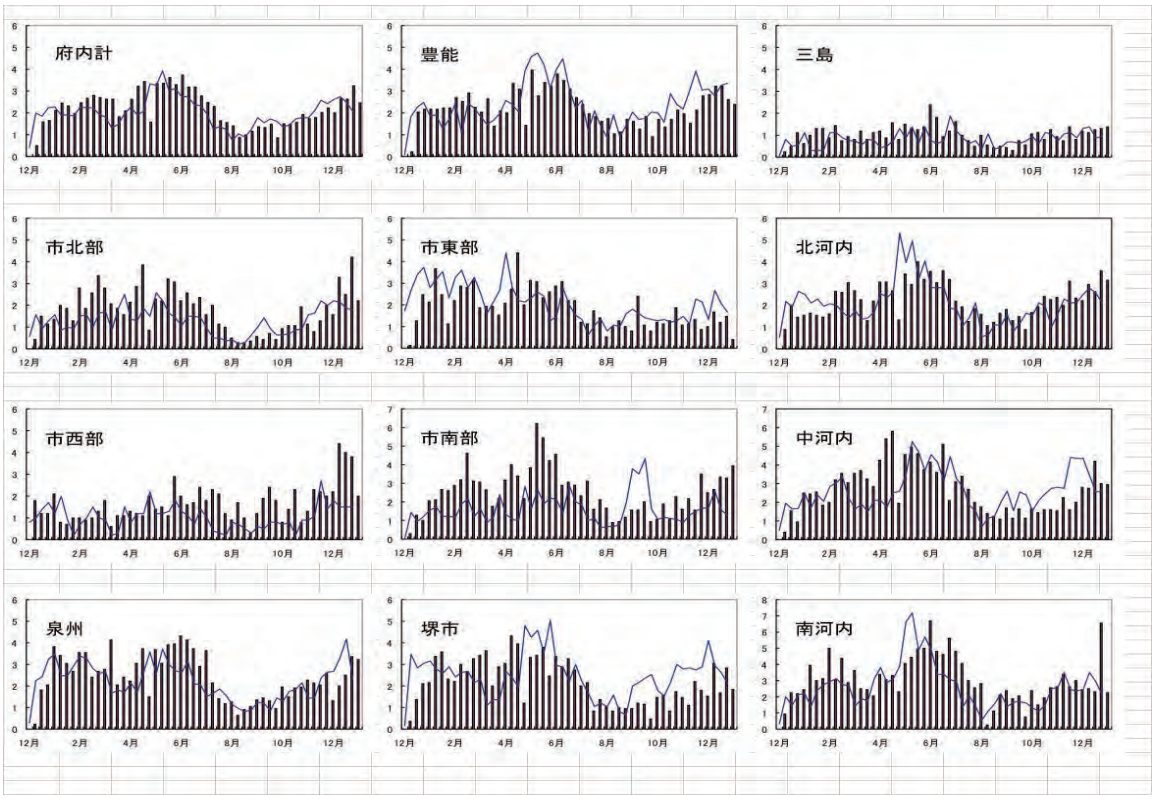
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 24 週、6.69）、⑤南河内（第 51 週、6.56）、⑪大阪市南部 (6.22)、④中河内（第 18 週、5.80）、⑤南河内（第 27 週、5.63）の順であった。

ブロック別年平均報告数、週別報告数ともに⑤南河内での報告数が目立っていた。

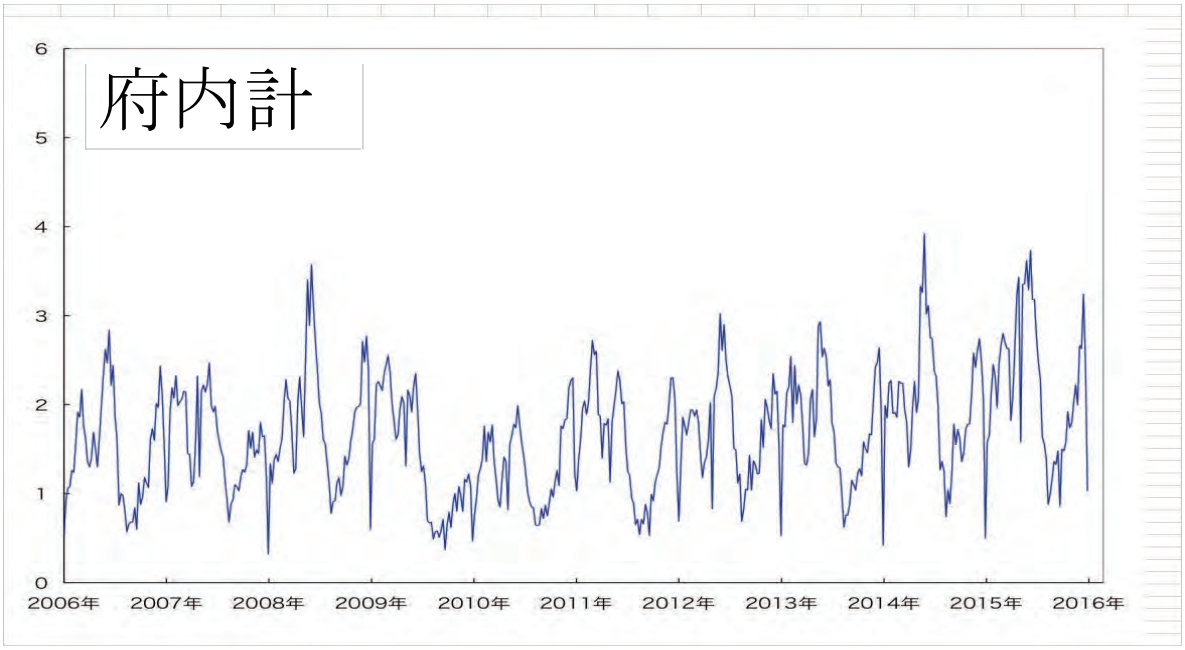
（文責：八木）

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●感染性胃腸炎

平成 27 年の感染性胃腸炎の報告数は 63,584 例、前年より 5,377 例、7.8％減少した。小児科・眼科定点報告対象 13 疾患総報告数の 40.8％を占め、第 1 位であった。定点あたり報告数は年平均 6.00 で、前年 6.67 より 10.0％減少し、ほぼ平年並みの流行であった。

全国集計では報告数 987,912 例で、総報告数の 40.6％を占め、定点あたり報告数は年平均 5.92 と前年 6.15 より減少した。

週別の定点あたり報告数は、第 2 週から徐々に増加し、第 10 週に前半のピークである 9.16 に達した。その後 6 ～ 7 を推移し、第 25 週以降は減少に転じ、第 33 週に年間最低値 2.37 となった。第 43 週より再び増加、第 49 週に年間最高値 10.18 に達した。全国集計では、第 2 週から増加し、第 11 週に 8.24 に達した。後半は第 49 週から増加し、大阪府よりやや遅い第 51 週に年間最高値 10.71 に達した。

月別報告数は、11 月、3 月、6 月、12 月、4 月、2 月の順に多かった。春から初夏に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋に再び増加し、冬にピークを持つ流行曲線は例年と同様であったが、前年と同様に冬のピークはやや低かった。

ブロック別にみると、定点あたり報告数が警報開始基準値 20.0 を超えたブロックはなく、④中河内の第 49 週 17.80 が最も高く、次いで⑤南河内の第 49 週 17.25、③北河内の第 10 週 17.00 が高値であった。

ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 9.18、④中河内 8.83、⑦泉州 7.84、③北河内 7.57、⑨大阪市西部 5.70、②三島 5.45、⑧大阪市北部 5.16、①豊能 4.90、⑪大阪市南部 3.44、⑩大阪市東部 3.41、⑥堺市 3.02 の順であった。

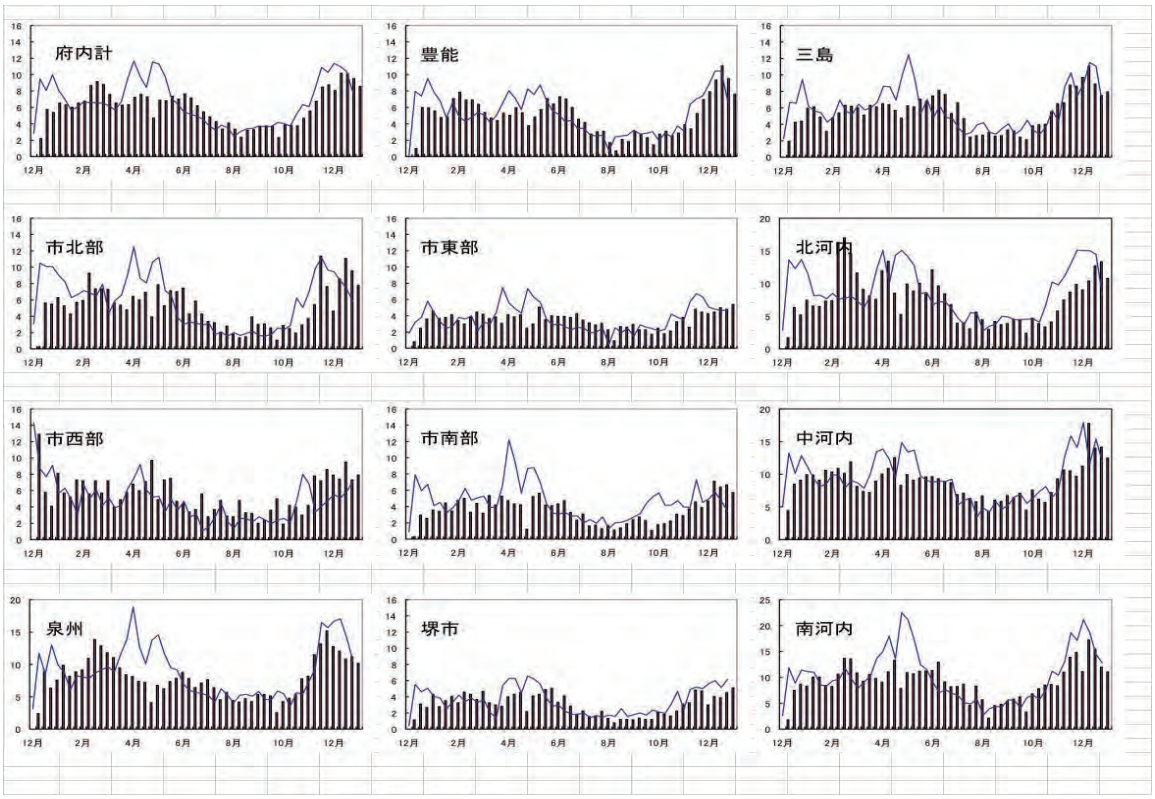
年齢別報告数（0 ～ 9 歳）は、1 歳、2 歳、3 歳、4 歳、5 歳、0 歳の順に多かった。0 ～ 4 歳の報告数は 34,185 例で全体の 53.8％を占めた。5 ～ 9 歳が 16,621 例（26.1％）、10 ～ 14 歳が 5,229 例（8.2％）、15 歳以上が 7,549 例（11.9％）で、各年齢群の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。

ウイルス検出は 377 検体のうち 212 検体が陽性、陽性率 56.2％であった。病原体別でみると、ノロウイルス G Ⅱが 88 件（陽性検体の 41.5％、うちノロウイルス G Ⅱ .17 は 5 件）、A 群ロタウイルスが 43 件（陽性検体の 20.3％）、サポウイルスが 23 件（陽性検体の 10.8％）で、この 3 種類のウイルスで全体の 7 割を占めた。

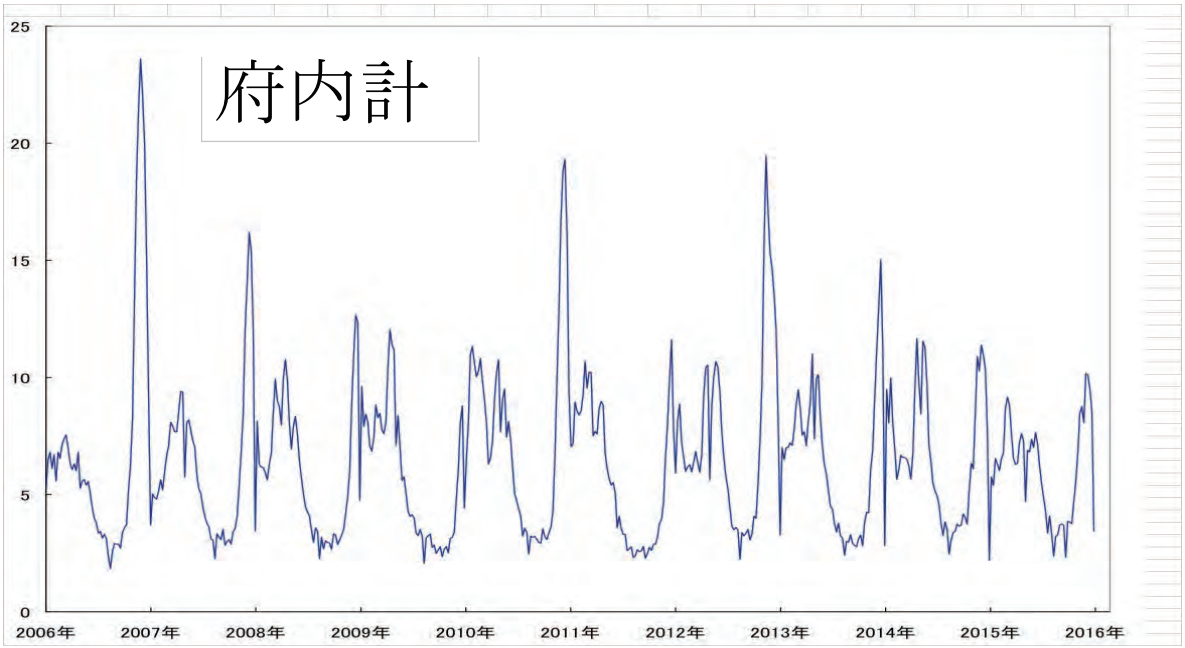
（文責：松浪）

感染性胃腸炎

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●水痘

平成 27 年の水痘の報告数は、5,534 例であった。総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 3.5%を占め、対象疾患中、感染性胃腸炎、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症に次いで第 5 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.52 で、前年（0.94）より 44.7%減少した。全国集計では 77,614 例の報告で、総報告数の 3.2%を占め、定点あたり報告数の年平均は 0.46 で前年（0.96）より 52.1%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 0.49 から第 2 週に本年最高値となる 1.17 まで増加し、第 3 週 0.44 以降は 0.35 と 0.67 の間で推移した後、第 26 週 0.61 から増減を繰り返しながら本年最低値となる第 36 週 0.25 まで減少した。その後増減を繰り返しながら本年第 2 位の値となる第 51 週 0.87 まで増加し、その後第 53 週 0.54 まで減少した。全国集計では、本年最高値となる第 2 週 1.10 から第 3 週 0.52 まで減少し、第 5 週 0.44 以降は 0.40 から 0.53 の間で推移した後、第 22 週 0.53 から増減を繰り返しながら本年最低値となる第 33 週 0.22 まで減少した。第 34 週 0.26 から第 41 週 0.27 まではほぼ横ばいとなった後増加に転じ第 51 週 0.87 に達した。これは本年第 2 位の値であった。その後減少し第 53 週 0.48 となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、11 月、1 月、3 月、4 月、2 月、6 月、5 月、10 月、7 月、9 月、8 月の順に高かった。例年の流行曲線は冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとるが、本年は冬のピークはあったものの過去 10 年間で最も低く、春にはピークを作らなかった。また夏から初秋にかけて低値であったのは例年通りであったが、最低値も過去 10 年で最も低かった。

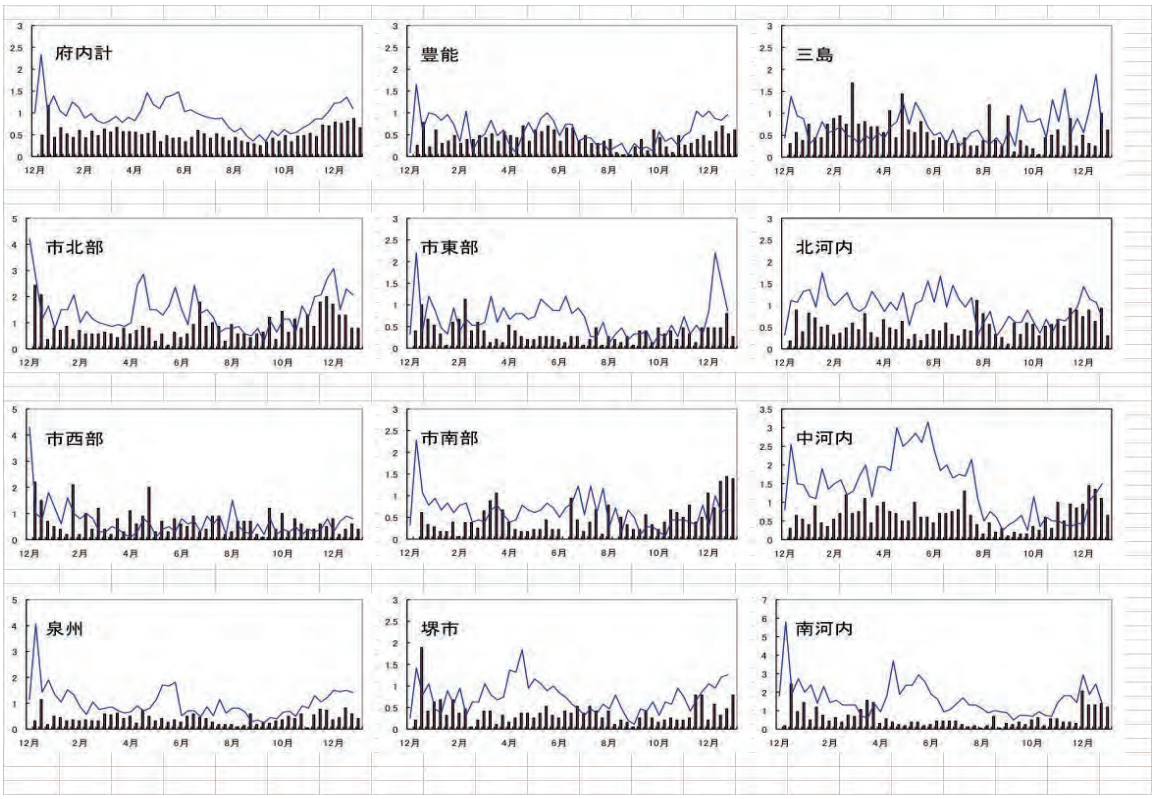
年齢別報告数（0 ～ 9 歳）は、4 歳児、3 歳児、5 歳児、2 歳児、1 歳児、6 歳児、7 歳児、0 歳児、8 歳児、9 歳児の順に多かった。0 ～ 4 歳の報告数は 3,179 例で全体の 57.4%を占め、昨年（68.4%）より割合が減少した。逆に 5 ～ 9 歳の報告数は 2,068 例で 37.4%を占め昨年（28.2%）より割合が増加した。10 ～ 14 歳及び 15 歳以上の報告数は各々 220 例（4.0%）及び 67 例（1.2%）で、いずれも昨年（各々 2.6%及び 0.8%）より割合が増加した。

定点あたり報告数の年平均をブロック別にみると、⑧大阪市北部 0.88、⑨大阪市西部 0.69、④中河内 0.64、⑤南河内 0.62、②三島 0.56、③北河内 0.52、⑪大阪市南部 0.46、①豊能および⑦泉州 0.42、⑥堺市 0.39、⑩大阪市東部 0.35 の順であった。

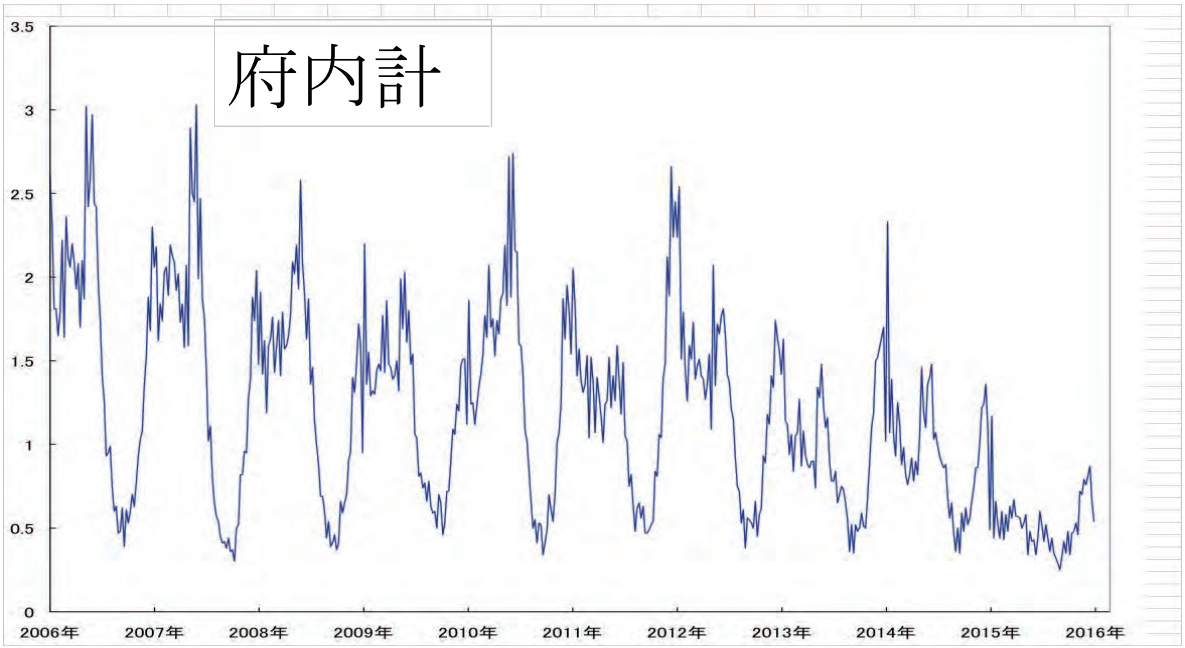
検体は咽頭拭い液が 1 件提出されたが、ウイルスは検出されなかった。　（文責：吉田）

水　痘

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●手足口病

平成 27 年の手足口病の報告数は 27,500 例で、平成 26 年の 2,239 例に比し、25,261 例、1128.2％の増加を示した。定点あたり報告数は平均 2.60 で、平成 26 年定点あたり報告数 0.22 の 1081.8％増であった。23 年の大流行に次ぐ、大きな流行であった。

平成 27 年の大阪府 13 疾患総報告数 156,006 例の 17.6％を占め、多い順では第 2 位であった。全国の手足口病の報告数 381,720 例は、全国 13 疾患総報告数では第 3 位であった。

週別の定点あたり報告数では　第 2 週（1 月）から 0.2 を超え、第 11 週に 0.5 を、第 11 週（3 月）には 0.9 を、第 16 週 (4 月) には 2.0 を超えた。第 19 週･20 週に少し減少したものの、第 21 週 (5 月) に 3.0 を超え、第 25 週 (6 月) に 5.0 を超え、第 27 週 (6 月) に 7.0 を、第 28 週 (7 月) に 9.0 を、第 29 週 (7 月) に 12.0 を超えてピークを形成した。

月別では　7 月 8,858 例が最も多く、次いで 8 月 5,758 例、6 月 5,102 例、5 月 2,010 例、4 月 1,904 例、9 月 1,757 例と続く。夏型感染症であった。

年齢別では　1 歳児 7,824 例が最も多く、次いで 2 歳児 5,620 例、3 歳児 4,131 例、4 歳児 2,778 例、0 歳児 2,463 例、5 歳児 1,808 例であった。0 歳から 5 歳までの就学前児童の報告数 24,624 例が全体の 89.5％を占めた。乳幼児期の感染症と言える。

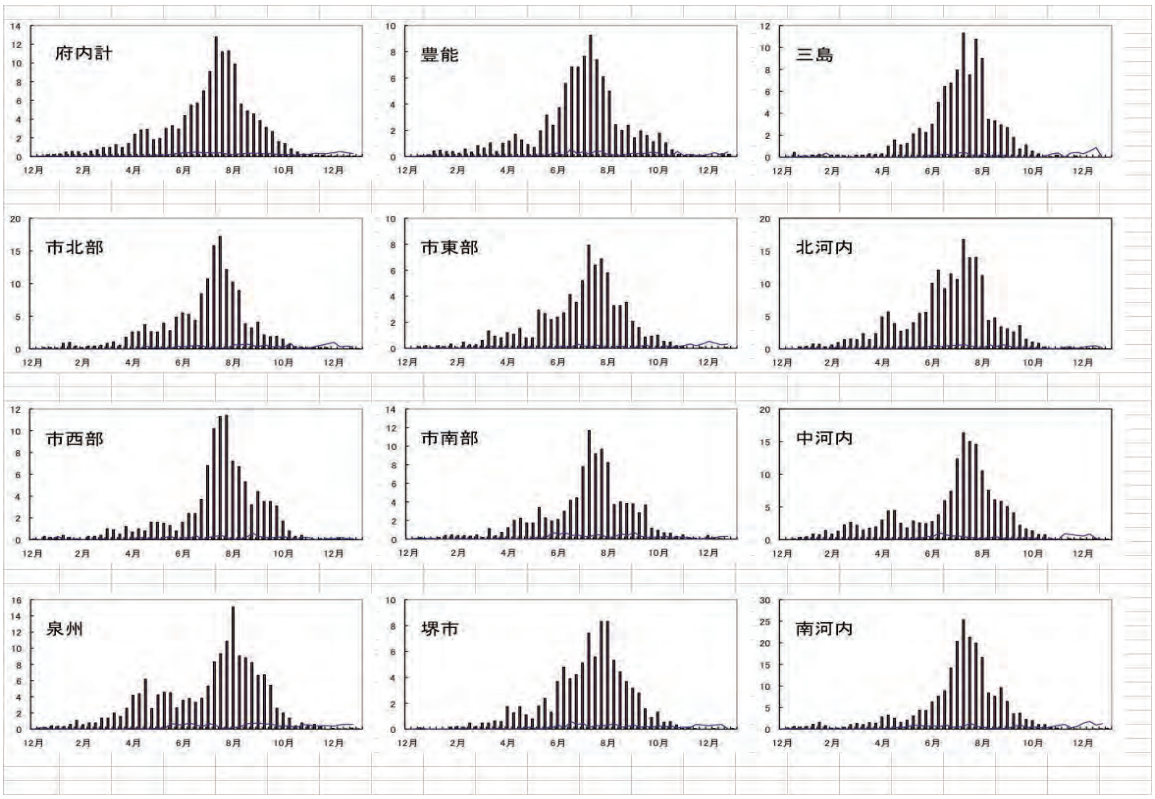
ブロック別の報告数では　③北河内 5,013 例が最も多く、次いで、⑦泉州 3,615 例、⑤南河内 3,586 例、④中河内 3,347 例、①豊能 2,201 例、⑧大阪市北部 2,158 例の順に報告数が多い。
ブロック別の定点あたり報告数の年平均では　⑤南河内 4.23 が最も高く、次いで、③北河内 3.50、④中河内 3.16、⑦泉州 3.10、⑧大阪市北部 2.91 と続く。

ウイルス検出は 171 検体中 144 検体で陽性、陽性率は 84.2％であった。検出ウイルスはコクサッキーウイルスＡ（ＣＡ）6 型が 76 件、ＣＡ 16 型が 38 件、エコーウイルス (Ｅ)18 が 5 件、ＣＡ 9 型･ＣＡ 10 型･Ｅ 16 型･ライノウイルスＡが 3 件、コクサッキーウイルスＢ（ＣＢ）5 型・ヒトパレコウイルス型不明が 2 件、Ｅ 3 型・Ｅ 25 型・エンテロウイルス 71 型・パラインフルエンザウイルス（ＰＩＶ）4 型・ライノウイルス・ライノウイルスＣ・ＲＳウイルスＢが各 1 件ずつ、ライノウイルス型不明が 11 件であった。(9 例の重複感染あり)

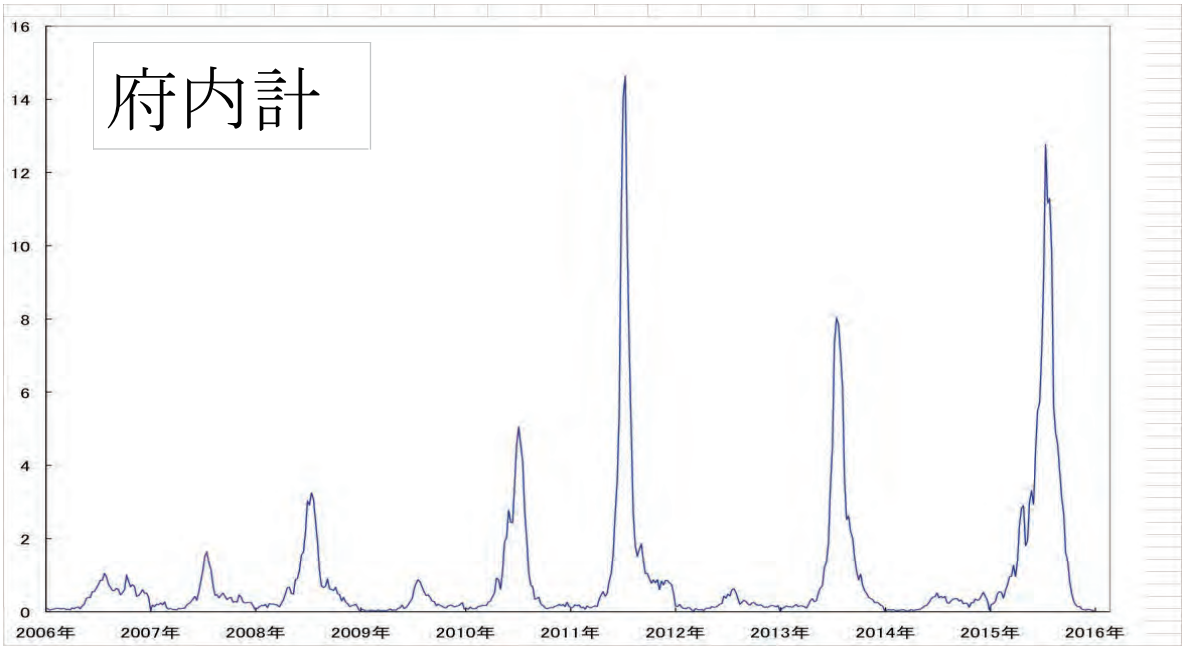
(文責：信田)

手足口病

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●伝染性紅斑

平成27年の伝染性紅斑の報告数は5,409例で、前年の691例から4,718例、682.7%増加した。小児科・眼科定点報告対象 13 疾患総報告数 156,006 例の 3.5%であった。定点あたりの報告数は年平均 0.51 で、対象疾患中第 7 位であった。全国集計では 98,521 例で、前年の 32,352 例から 304.5%の増加を認めた。対象 13 疾患報告数 2,431,661 例の 4.1%を占め、定点あたりでは年平均 0.59 の報告があり、第 6 位であった。

大阪府における週別の定点あたり報告数については、年間最高値は第 28 週の 1.16 で、最小値は第 1 週の 0.04 であった。年間の推移としては、21 週以降 0.5 以上が続き 26 週から 4 週続いて 1.00 を超え、春から夏にかけて増加する例年通りの傾向がみられた。また 36 週以降 0.5 を切っていたが、47 週 0.94、49 週 0.79 と冬にも増加がみられた。全国集計の定点あたり報告数でも、第 28 週の 1.21 が年間最高値で、最低値は第 1 週の 0.10 で、26 週から 4 週続いて 1.00 を超えていた。また 50 週 0.80、52 週 0.83 と、同様に冬に増加がみられた。

月別の患者報告状況を見ると、6 月が 833 例と最も多く、次いで 11 月の 702 例、7 月 701 例の順であった。全国集計でも、6 月が 14,445 例と最も多く、次いで 7 月の 12,150 例、11 月 10,582 例であった。

過去 10 年間の全国報告数では、平成 23 年が 87,010 例と最も多かったが、27 年はそれを上回る 98,521 例であった。24 年は 20,966 例と 23 年に比べて著しく減少し、25 年は過去 10 年間で最低の 10,115 例となっていた。26 年は 3 年ぶりの増加を示し、本 27 年の報告数に至った。過去の発生動向で、19 年に 78,938 例という比較的大規模の流行があったが、翌 20 年は 19,257 例、21 年は 17,281 例と 2 年続けて減少し、22 年に 50,061 例と 3 年ぶりに増加し翌 23 年の 87,010 例へ続いた。経年的にみると、本疾患は 4 年くらいの周期で流行する傾向がみられ、27 年の増加もその傾向どおりであると考えられる。

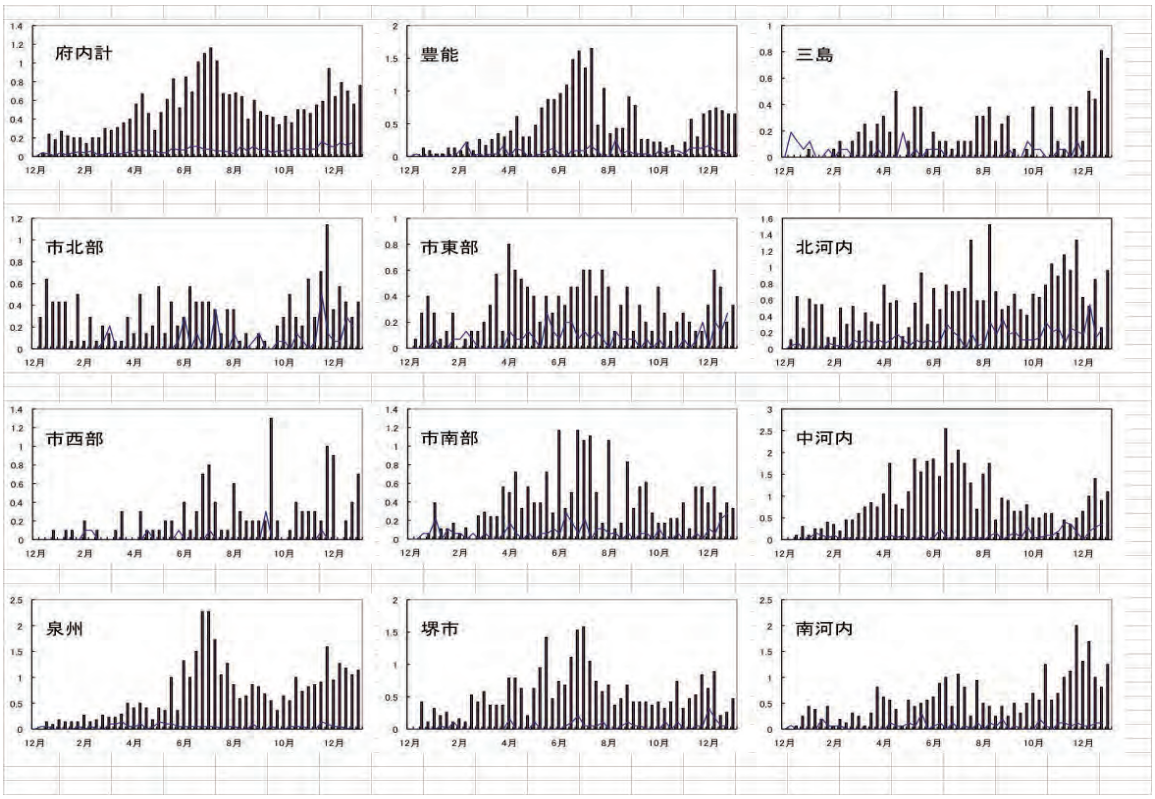
年齢別報告数では、前年と同様に 5 歳の 916 例が最も多く 16.9%を占め、4 歳 855 例、6 歳の 801 例と続いている。3 歳から 8 歳までの年齢層で 4,110 例の報告があり、全体の 76.0%を占めた。20 以上の成人例は 65 例で 1.2%と僅少であり、例年通り幼児期から学童期が好発年齢であった。

ブロック別の年間平均報告数を定点あたりで見ると、④中河内 0.87、⑦泉州 0.71、③北河内 0.61、⑤南河内 0.59、⑥堺市 0.54、①豊能 0.49、⑪大阪市南部が 0.39、⑩大阪市北部と⑧大阪市東部が 0.32、⑨大阪市西部 0.25、②三島 0.19 の順であった。年間最高値は④中河内の 26 週の 2.55 であった。

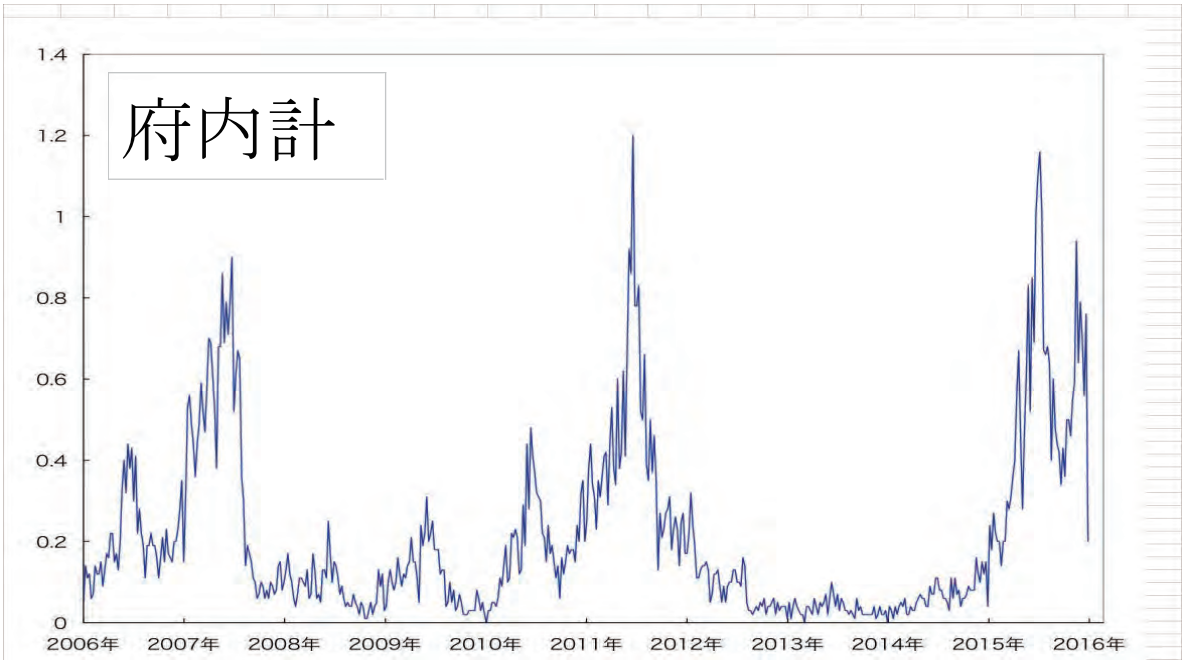
（文責：廣川）

伝染性紅斑

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●突発性発しん

平成 27 年と平成 26 年の患者報告数の比較では、平成 27 年の報告数は前年比 0.9％減の 5,491 例で、総報告数の 3.5％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.52 で順位は第 5 位であった。

全国的には第 7 位（0.51）であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、定点あたりの報告数は、毎月の平均と標準偏差でみると、6 月（第 23 ～ 27 週）が 0.70±0.06、5 月（第 19 ～ 22 週）が 0.65±0.05 と高く、1 月（第 1 ～ 5 週）が 0.36±0.13、12 月（第 50 ～ 53 週）が 0.38±0.13 と低値であった。

全国的には 6 月（第 23 ～ 26 週）が 0.65±0.03、7 月（第 27 ～ 31 週）が 0.59±0.03、5 月（第 19 ～ 22 週）が 0.60±0.11 と高く、1 月（第 1 ～ 5 週）が 0.37±0.12、12 月（第 50 ～ 53 週）が 0.37±0.11 と低値であった。

年齢別患者発生数では 1 歳の 2,679 例（48.8％）が最も多く、0 歳が 2,159 例（39.3％）、2 歳 505 例（9.2％）であり、0 歳と 1 歳で全体の 88.1％、2 歳を含めると 97.3％を占めた。

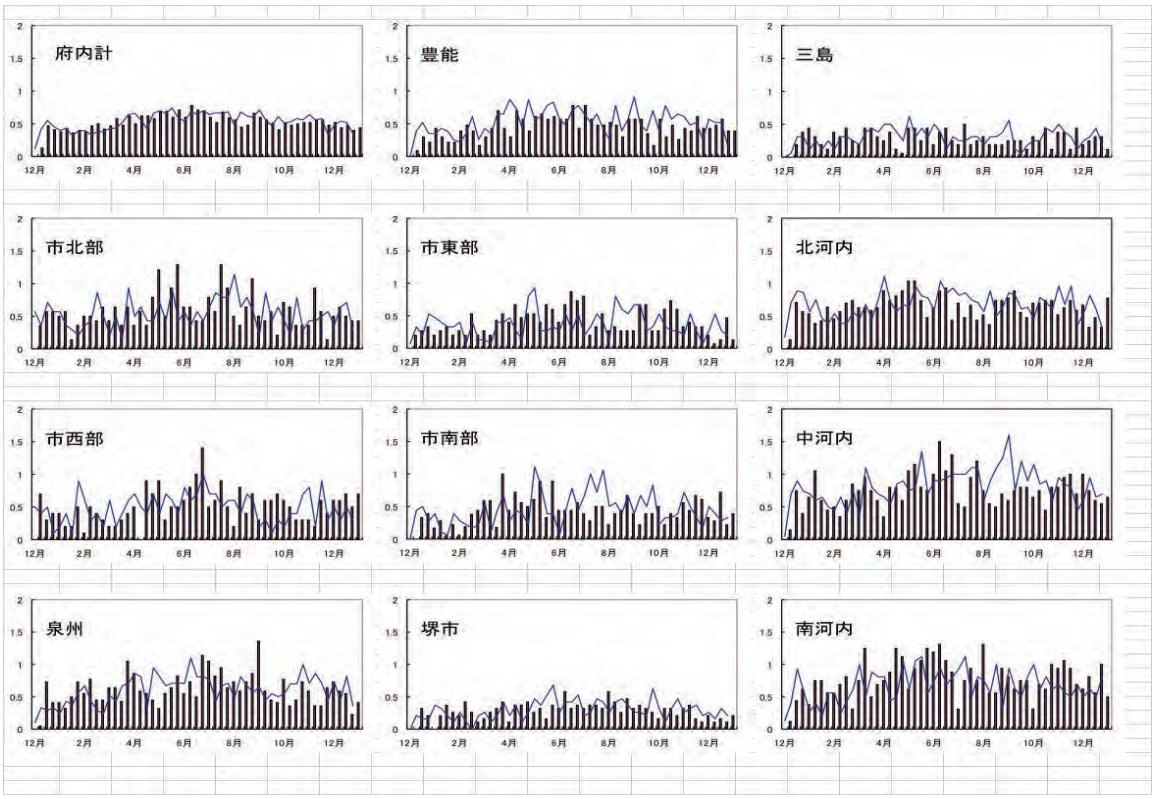
ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは⑤南河内（0.76）、④中河内（0.73）、③北河内（0.6 3）、⑦泉州（0.6）、⑧大阪市北部（0.57）の順であった。下位は⑥堺（0.28）、②三島（0.28）であり、上位のブロックとは約 2 倍の差がある。

本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、上位と下位では約 2 倍の差があり、この傾向は過去のデータと同じである。

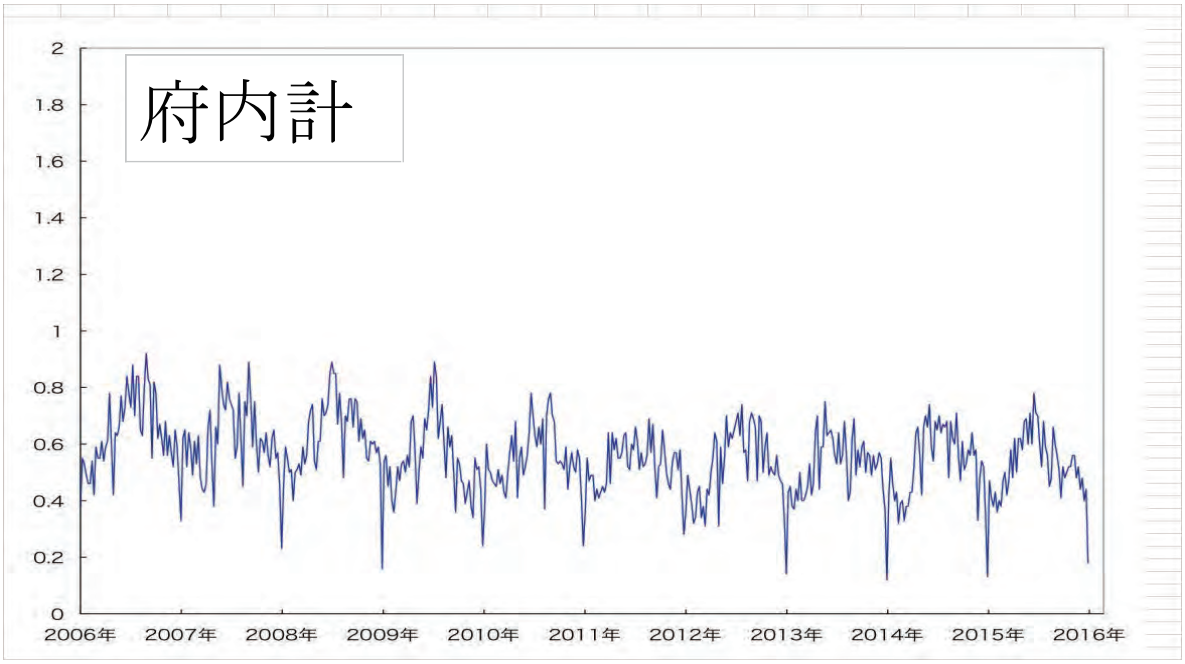
（文責：東野）

突発性発しん

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●百日咳

平成２７年の百日咳の報告数は 219 例（定点あたり報告数 0.02）で、前年の 171 例（定点あたり報告数 0.02）に比して 28.1％増であった。全国集計における報告数は 2,675 例（定点あたり報告数 0.02）で、前年の 2,066 例（定点あたり報告数 0.01）から 29.5％増となった。全国、大阪府ともに、小児科定点把握 11 疾患のうち最も報告数の少ない疾患であった。

全国の報告数は平成 10 年代半ばには 1,000 例台（定点あたり報告数 0.01）であったが、平成 19 年より増加し、平成 20 年には 6,686 例（定点あたり報告数 0.04）となり、24 年の 4,087 例（定点あたり報告数 0.03）まで高い報告数が続いた。近年は増加前の平成 10 年代半ばと同水準であるものの、平成 25 年は 1,662 例（定点あたり報告数 0.01）、平成 26 年は 2,066 例（定点あたり報告数 0.01）、平成 27 年は 2,675 例（定点あたり報告数 0.02）と緩やかな増加を示す。大阪府の報告数も平成 18 年は 141 例であったが、平成 19 年から 24 年までは 247 例から 364 例のあいだを推移していた。平成 26 年の報告数 171 例、平成 27 年の報告数 219 例であり全国と同様に増加を示した。

週別の報告数でみると、6 月の報告数（週平均 8.4 例）が最も多く、11 月（同 5.8 例）、9 月（同 5.3 例）と続く。逆に少ないのは 2 月（同 2.3 例）、3 月（同 2.4 例）であった。

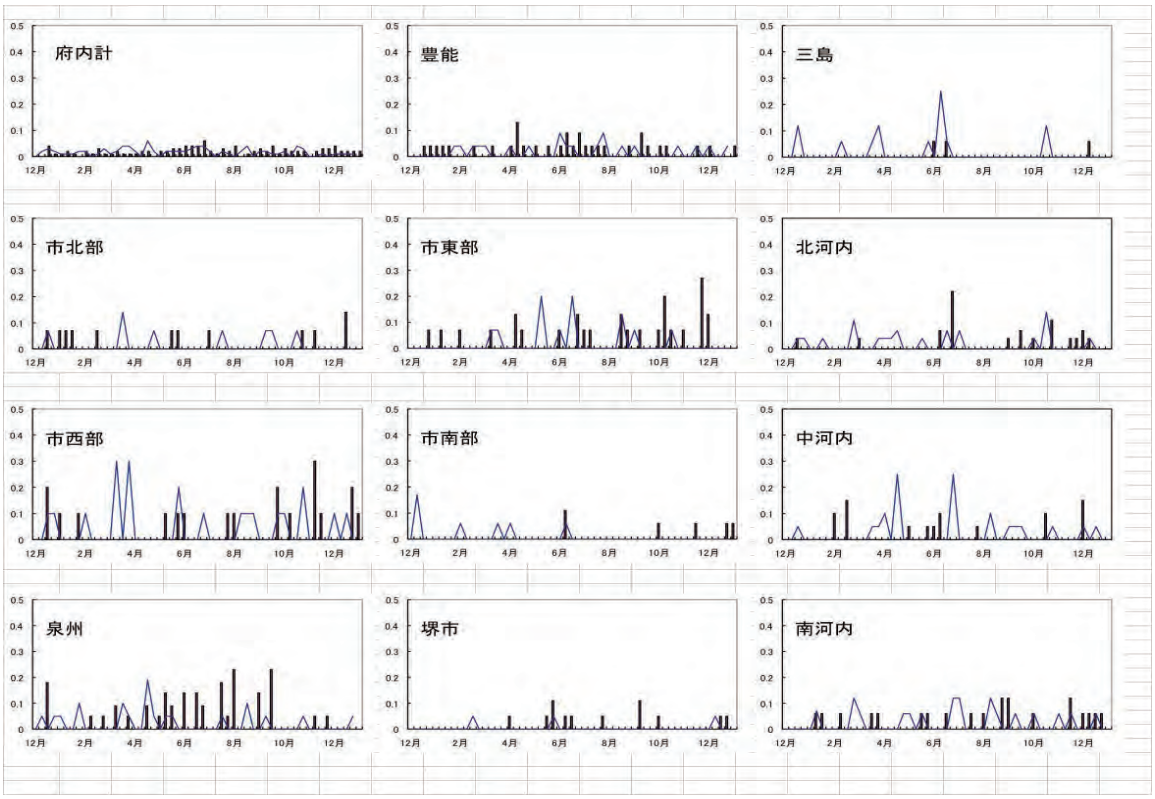
年齢別では、乳幼児に多く、6 ヶ月未満 18.7%（41 例）、6 ヶ月以上 12 ヶ月未満 5.5%（12 例）、1 歳児 5.5%（12 例）の報告があった。2 歳未満の患者が報告数の 35.6%（78 例）を占めている。20 歳以上の報告数は 19.2%（42 例）であり、昨年の 19.3%（33 例）とほとんど変わらず、本疾患が子供だけの病気でないことに依然注意を払う必要がある。

ブロック別で報告数の多かったのは⑦泉州 45 例、①豊能 33 例、⑩大阪市東部 28 例で、少なかったのは、②三島 3 例、⑪大阪市南部 6 例であった。

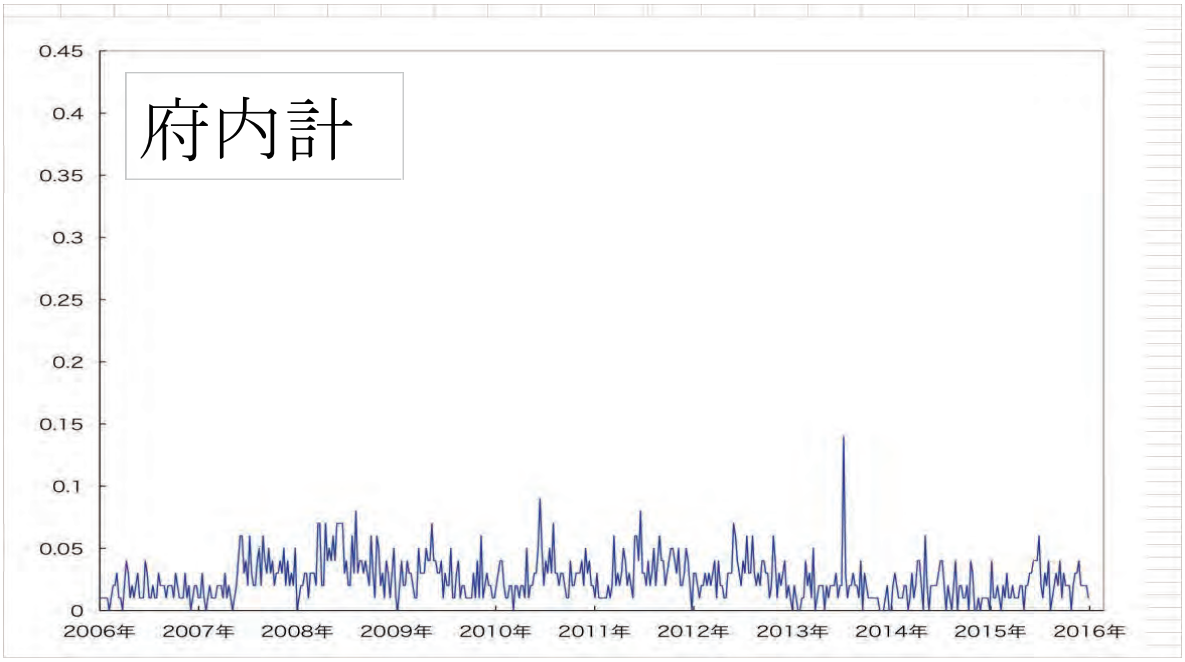
（文責：谷本）

百日咳

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●ヘルパンギーナ

平成 27 年度と平成 26 年度の患者報告数の比較では、平成 27 年の報告数は前年比 47.5%減の 5,096 例で、総報告数の 3.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.48 で順位は昨年の第 4 位から 7 位になった。

全国的には 5 位（0.59）であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、週別では第 1 週から第 19 週までは 0.01 ～ 0.15 で推移し、第 20 週（5 月）に 0.22 となり以後増加し、第 29 週（2.57)、第 31 週（2.79)（7 月）にピークとなった。第 37 週（9 月）に 1.0 を切り 0.75 となり減少が続いた。第 5 週（6 月）に報告疾患の第 4 位になり、第 29 ～ 34 週（7 月～ 8 月）に第 3 位となった。第 38 週の第 5 位を最後に上位 5 疾患から外れた。

全国的には 0.19 となった第 20 週（5 月）から増加が始まり、第 25 週には 1.0 を超え、第 29 週（3.35)、第 31 週（3.05）（7 月）にピークに達した。以後減少し、第 38 週（9 月）には 1.0 を切った。

年齢別患者発生数では、1 歳 1,407 例（27.6 %)、2 歳 1,004 例（19.7%)、3 歳 708 例（13.9 %)、0 歳 581 例（11.4%)、4 歳 483 例（9.5%)、の順で、0 ～ 4 歳で全体の 82.1%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部（0.78)、⑨大阪市西部（0.65)、③北河内（0.60)、④中河内（0.50)、②三島 (0.49) の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部（第 30 週、5.29) ⑧大阪市北部（第 32 週、5.21)、⑨大阪市西部（第 33 週、5.10)、⑨大阪市西部（第 31 週、4.7)、③北河内（第 31 週、4.11）の順であった。

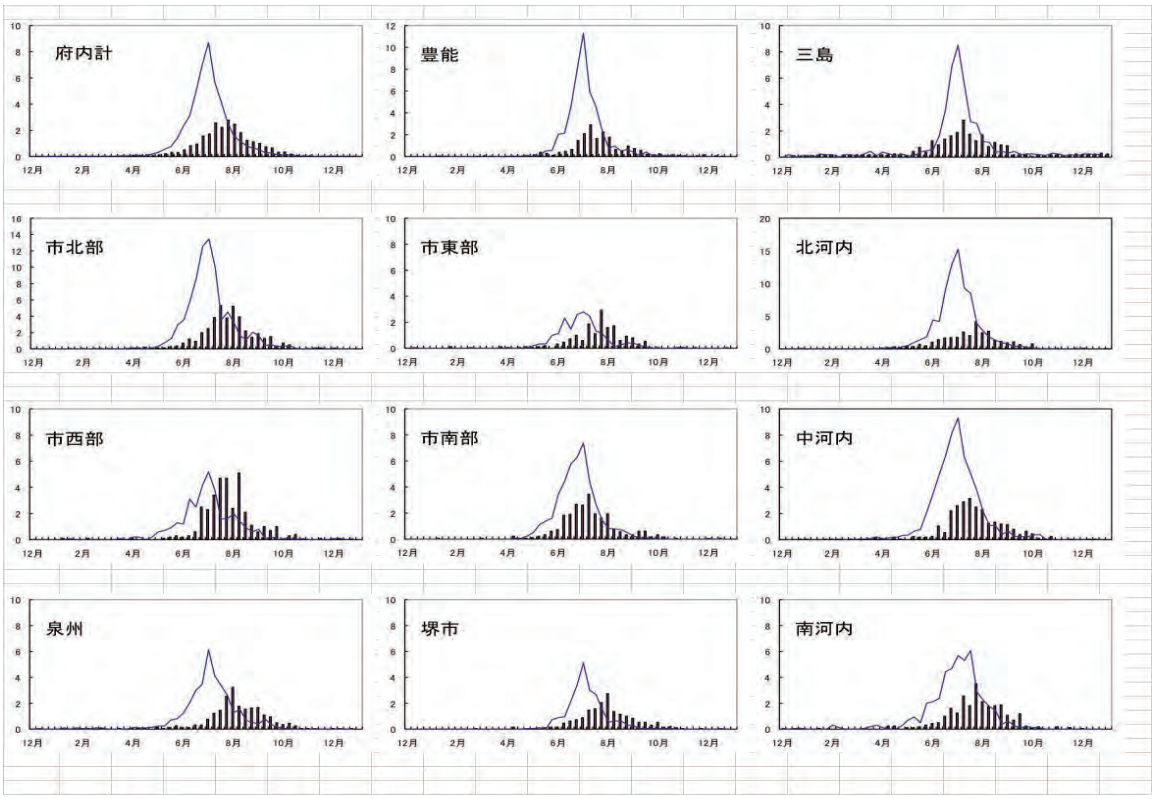
病原体検出の陽性率は 50.9%であった。アデノ 1 型（1)、アデノ 4 型（1)、コクサッキー A10 型（10)、A16 型（2)、A5 型（1)、A6 型（8)、A9 型（1)、ライノウイルス（5）が検出された。

本疾患は 6 月末から 8 月にかけて流行の急峻な単峰性ピークを示す夏型感染症である。本年の流行は昨年と同様の比較的典型的な流行パターンであった。一方、⑨大阪市北部では 9 月になっても定点あたり 1.0 を超え、流行の終息が遷延した。

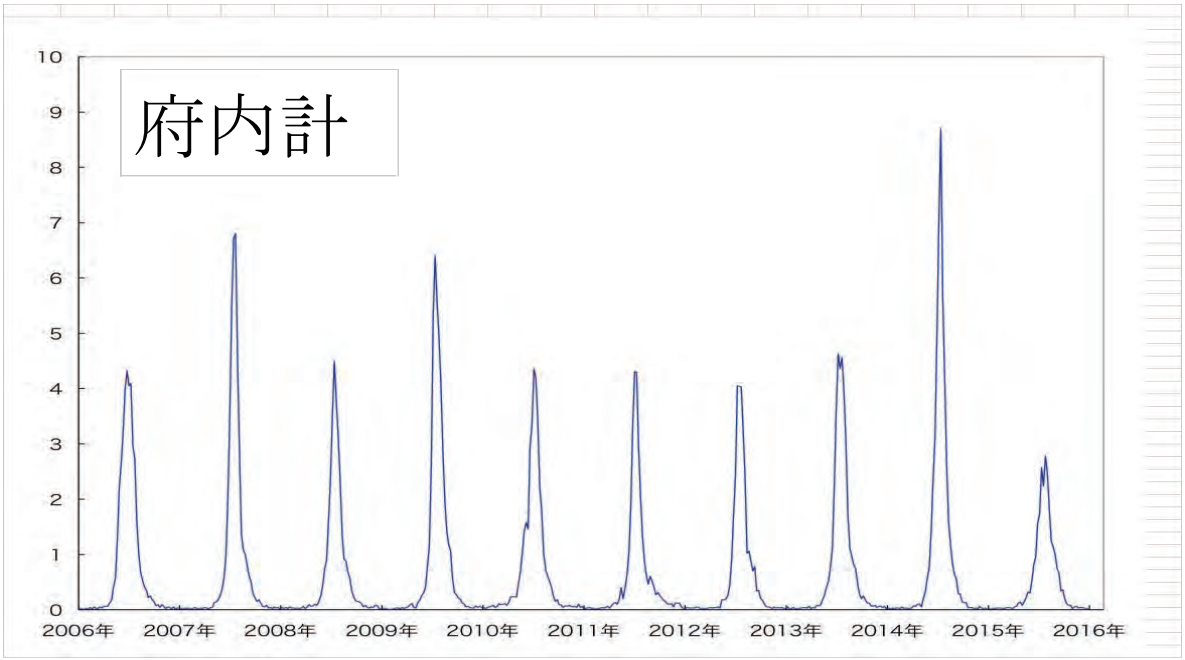
（文責：東野）

ヘルパンギーナ

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●流行性耳下腺炎

平成 27 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 3,761 例で、前年比 118.5％増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 2.4％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.35 で、順位は第 10 位であった。3 年連続で減少が続いていたが、平成 26 年からは増加に転じている。

全国集計では 81,046 例の報告で、前年比 74.9％増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 3.3％を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.49 で、順位は第 8 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 28 週 (7 月)、第 30 週 (7 月)、第 40 週 (9 月)、第 43 週 (10 月)、第 46 週 (11 月)、第 50 週から第 52 週（12 月）で 0.5 を超え、ピーク値は第 51 週（12 月）の 0.74 であった。秋季～冬季にやや多い傾向があった。

全国集計では、第 25 週から第 32 週（6 月～ 8 月）、第 34 週から第 35 週（8 月）、第 37 週から第 38 週（9 月）、第 40 週から第 53 週（9 月～ 12 月）で 0.5 を超え、ピーク値は第 46 週 (11 月) の 0.70 であった。

年齢別患者発生数は、5 歳児の 690 例が最も多く、以下 4 歳児（661 例）、6 歳児（505 例）、3 歳児（458 例）と続き、3 歳児から 6 歳児で全体の 61.5％を占めた。この割合は例年とほぼ同様であった。

定点あたりの報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑤南河内（0.79）、④中河内（0.69）、⑪大阪市南部 (0.66) 、⑨大阪市西部 (0.63)、⑧大阪市北部 (0.50) の順であった。

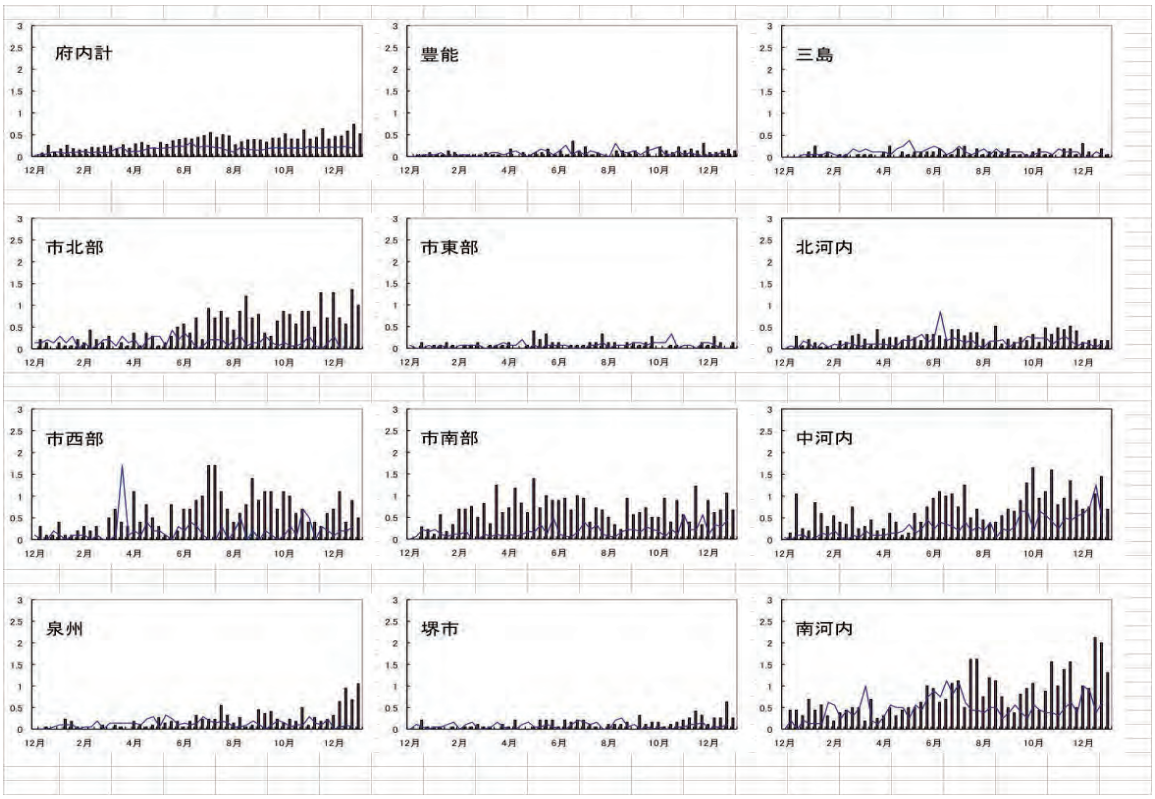
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 50 週、2.13）、⑤南河内（第 51 週、2.00）、⑨大阪市西部 (第 28・29 週、1.70)、④中河内（第 40 週、1.65）、⑤南河内（第 30・31 週、1.63）の順であった。
ブロック別年平均報告数、週別報告数ともに⑤南河内での報告数が目立っていた。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 26 検体あった。うち 14 検体が陽性であった（陽性率 53.8％）。内訳は Mumps_genotypeG が 12 件（85.7％）とほとんどを占めていた。

（文責：八木）

流行性耳下腺炎

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）

3）眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

平成 27 年の急性出血性結膜炎の報告数は、42 例で前年より 15 例増加し、一定点眼科医療機関あたり 0.02 であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第 8 週の 0.06（3 例）で、次いで、第 13 週、第 14 週、第 18 週、第 20 週、第 31 週、第 32 週、第 43 週、第 44 週、第 45 週、第 51 週、第 53 週が 0.04（2 例）であった。報告の無い週が 24 週あった。

年間平均ブロック別では、⑧大阪市北部の 0.04 が最も高く、④中河内、⑦泉州の 0.03 がこれに続いた。②三島からの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20 歳以上の報告数が 35 例と、全体の 83.3％を占めた。

本年の大阪府内の報告数は、定点当たりで全国情報より高かった。これは、平成 12 年以来のことである。ちなみに平成 12 年の全国報告数は定点当たり 0.04、大阪府内は 0.10 であった。

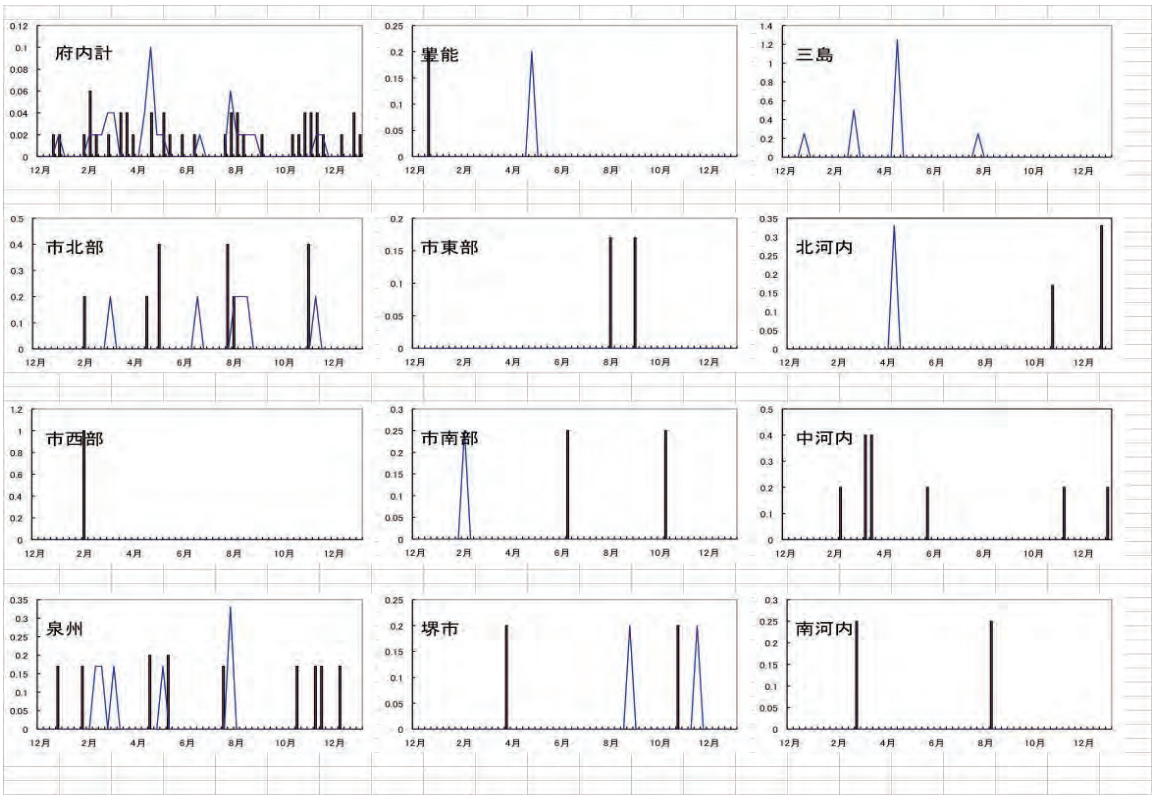
最近 5 年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
大　阪	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
全　国	0.13	0.01	0.02	0.01	0.01

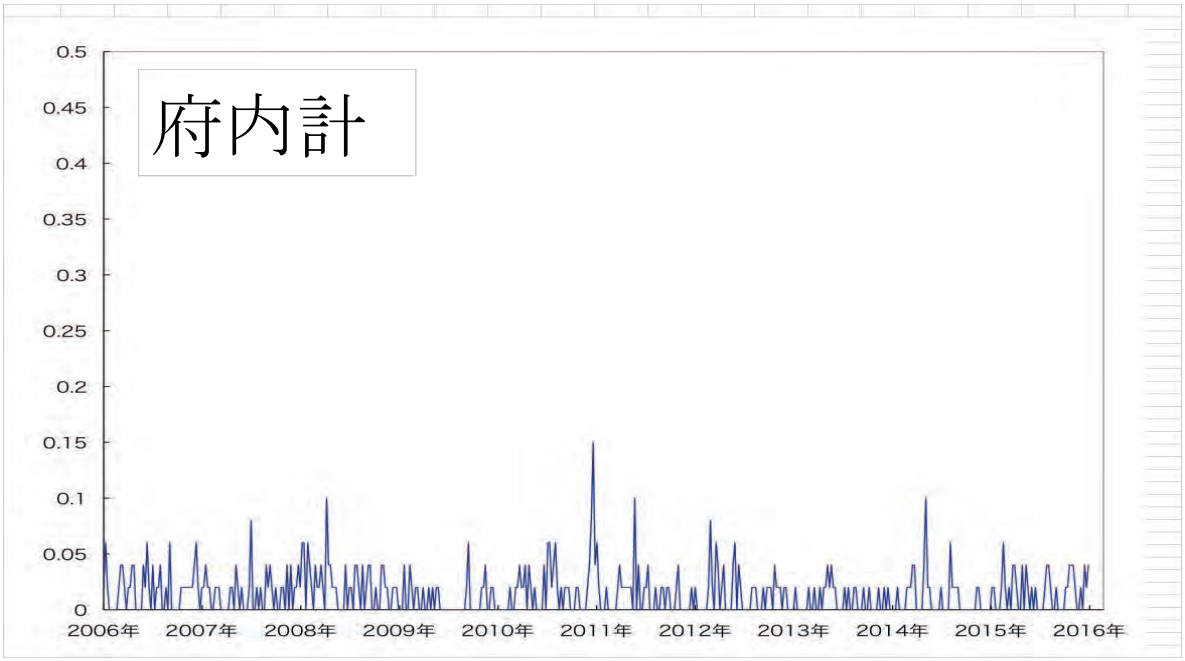
（文責：笹部）

急性出血性結膜炎

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



●流行性角結膜炎

平成 27 年の流行性角結膜炎の報告数は前年の 38.9%増の 1053 例で、一定点眼科医療機関あたり 0.38 であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第 34 週の定点あたり 0.85 で、第 36 週の 0.77 がこれに続き、以下、第 31 週が 0.73、第 35 週、第 37 週、第 38 週が 0.67 であった。本疾患は夏型感染症とされており、発生件が多いとその傾向は顕著になる。本年は、第 28 週から第 40 週までの（7 月～ 9 月）13 週に全体の 36％の報告があった。

週別ブロック別では、⑦泉州第 31 週の 3.33 が最も高く、同じく⑦泉州第 30 週の 2.67、第 34 週の 2.50 第 38 週の 2.33、⑥堺市第 22 週の 2.20 と続いた。

年間平均ブロック別では、⑦泉州が 0.87 と第 1 位で、次いで⑪大阪市南部 0.61、②三島 0.47、⑥堺市 0.43 の順であった。最低は、③北河内の 0.17 であった。

年齢別では、例年どおり成人（20 才以上）の発生件数が多く、本年も 734 例と全体の 69.7 %を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

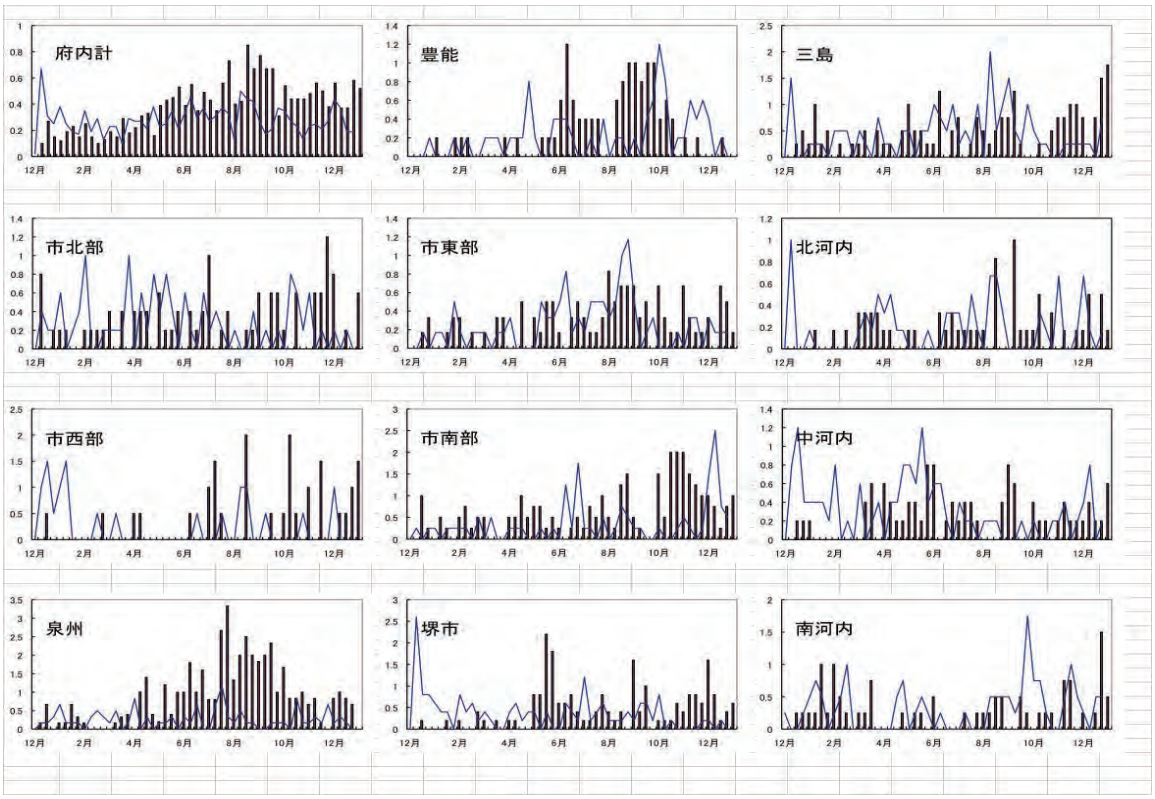
最近 5 年間の一眼科定点あたり流行性角結膜炎発生例数

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
大阪府	0.30	0.23	0.36	0.28	0.38
全国	0.60	0.56	0.58	0.57	0.69

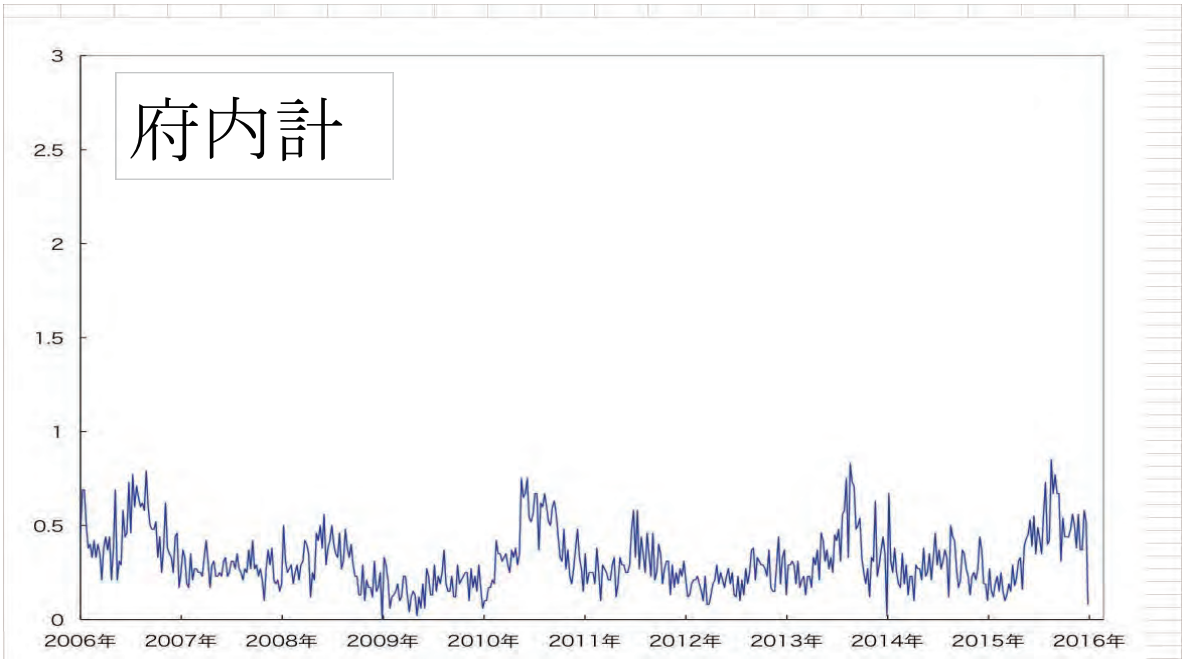
（文責：笹部）

流行性角結膜炎

線（H26 年第 1 週～第 52 週）
棒（H27 年第 1 週～第 53 週）



線（H18 年第 1 週～ H27 年第 53 週）



4）基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5 類感染症の中の細菌性髄膜炎（平成 25 年 4 月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、平成 26 年 9 月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。)、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 (オウム病を除く)、及び、平成 25 年 10 月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の 5 疾患である。

表には平成 26､27 年の大阪府･市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 17 ある。報告数は平成 27 年 993 例で、平成 26 年 418 例から 138%の増加であった。マイコプラズマ肺炎が大きく増加、ロタウイルス胃腸炎、無菌性髄膜炎は少し増加した。平成 11 年の事業開始時から本項目の報告活動はブロック間・病院間で報告数の差が大きく、改善が望まれている。

ブロック	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎（オウム病を除く）		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
（年）	平成26	平成27	平成26	平成27	平成26	平成27	平成26	平成27	平成26	平成27
(1)豊能			9	10	7	25	2	1	10	40
(2)三島		2	1	5	28	187	3		40	19
(3)北河内	4	1			7	25			33	
(4)中河内	3			1	14	51			18	34
(5)南河内		2	3	3	1	15			56	70
(6)堺	8	7	8	12	36	95	4	3	19	28
(7)泉州	3	1			7	57			4	37
大阪市	2	3	1	4	35	185	3	5	49	49
合計	20	16	22	35	135	640	12	9	229	293
定点あたり大阪	1.18	0.94	1.29	2.06	7.94	37.65	0.17	0.53	13.47	17.24
定点あたり全国	0.83	0.95	1.9	2.24	13.63	21.69	0.68	0.87	8.48	9.12
定点数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

15 例が報告され、定点あたり 0.9 で、平成 26 年の 20 例に比し 25%減であった。年齢は 3 ヵ月未満 3 例、5 ～ 9 歳児が 1 例、10 歳台 1 例、40 歳台 3 例、50 歳台 1 例、60 歳台 4 例、80 歳台 2 例であった。原因菌は肺炎球菌 4 例、肺炎桿菌 (*Klebsiella pneumoniae*)、その他の連鎖球菌、大腸菌 (新生児)、肺炎マイコプラズマ (血清診断) が各 1 例の合計 7 例で、他の 8 例では細菌は検出されていなかった。ウイルスを含めて髄液の核酸検出による原因微生物の同定検査の普及を期待したい。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は 5 類全数報告を参照されたい。肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、明確な規定が望まれる。

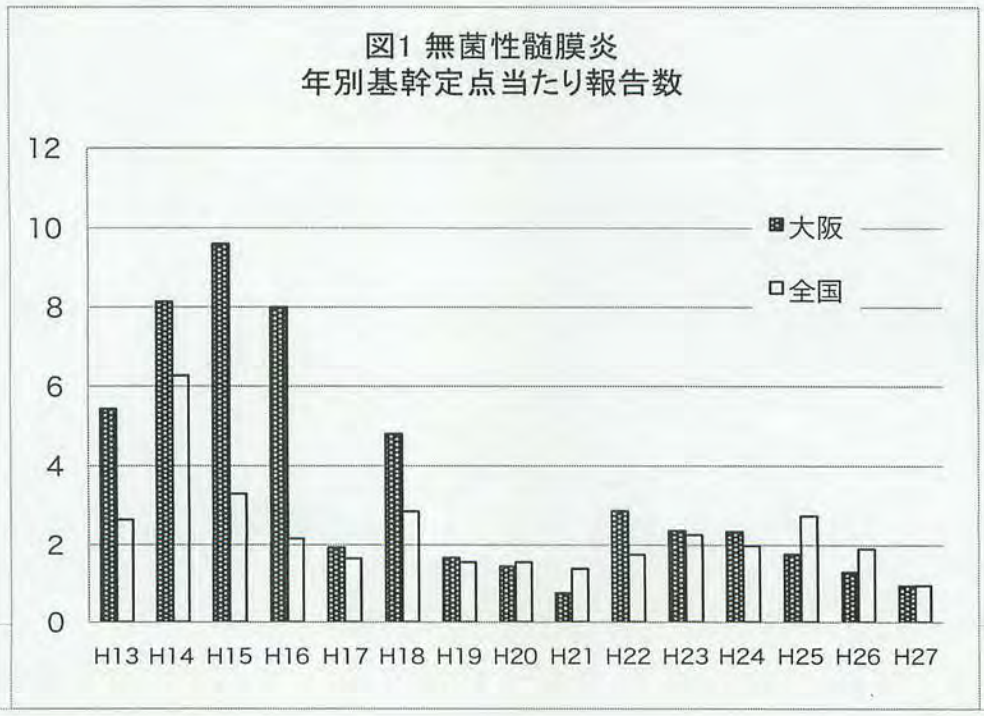
全国集計では平成27年は452例の報告があり、定点あたり0.95、平成26年は393例、定点あたり0.83で平成27年は前年比15%増であった。全国集計ではB群レンサ球菌7.7%、肺炎マイコプラズマ6.2%、肺炎球菌5.5%、リステリア菌2.7%などが多いが、ここでも55.4%は原因菌が検出されていない。

●無菌性髄膜炎

6ブロックと大阪市から合計35例が報告され、定点当たり2.1で前年比59%増であった。

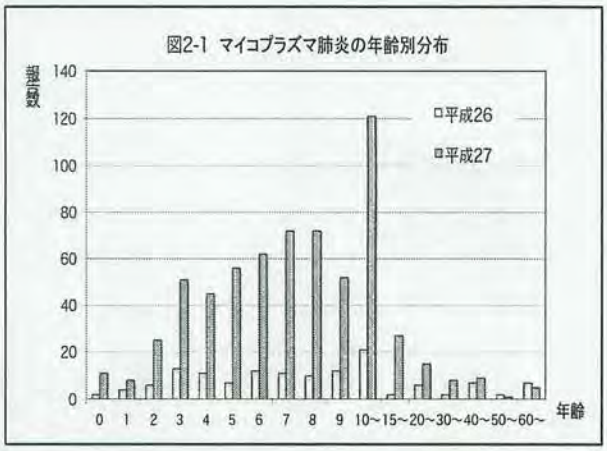
年齢構成は0～4歳児4例、5～9歳児3例、10歳台4例、20歳台6例、30歳台7例、40歳台2例、50歳台6例、60歳台2例、70歳台1例であった。10歳未満が全体の14%と少なく、10歳～39歳で64%を占めた。原因微生物としてはムンプス4例、*Cryptococcus neoformans*2例、肺炎マイコプラズマ1例、陰性と記載なし28例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では平成27年の無菌性髄膜炎患者からコクサッキーB(CB)5が8例、エコー(E)18が6例、ムンプスgenotypeGが9例、などが検出されている。図1に大阪府と全国の年間の定点あたりの報告数の推移を示す。大阪府では平成19年以後無菌性髄膜炎の大きな流行がない。

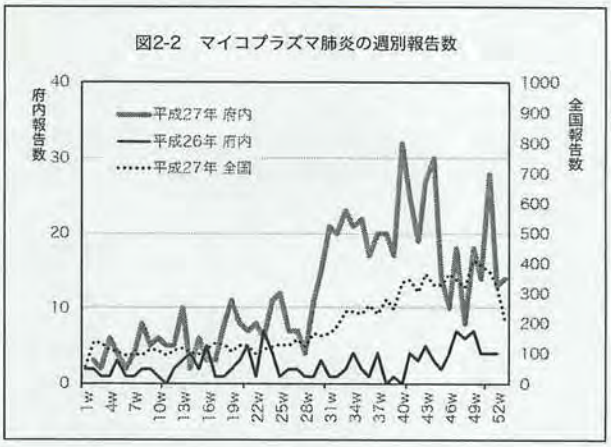
全国集計では平成27年は1,069例の報告があり、定点あたり22、平成26年901例の報告で定点あたり1.9であり、平成27年は前年比30.5%減であった。国立感染症研究所のデータを参照すると原因ウイルスではE18(77例)、CA9(42例)、CB5(30例)、E9(22例)、ムンプス(33例)などが多い。



●マイコプラズマ肺炎

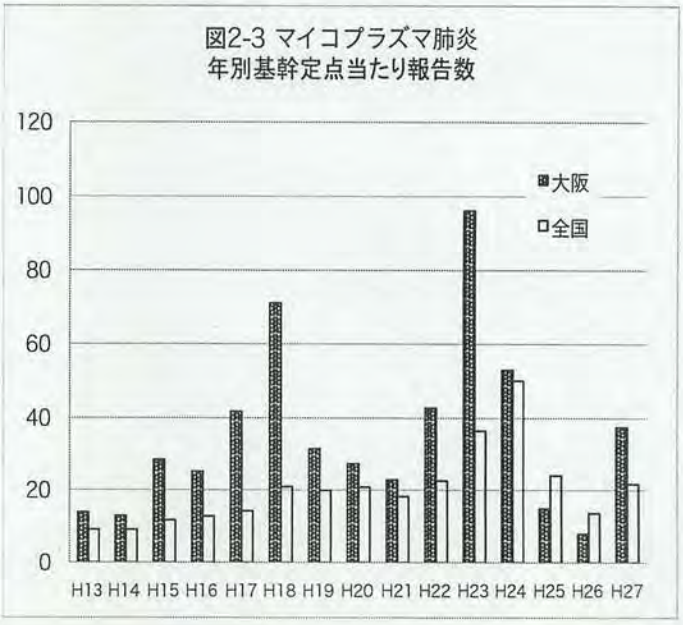
全ブロックから640例の報告があり、定点あたり37.7で、平成26年の3.7倍であった。ブロック別では②三島29.2%、大阪市28.9%、⑥堺14.8%、⑦泉州8.9%からの報告が多い。全ブロックで増加した。年齢分布は図2-1に示すように3歳～9歳に多く、7～8歳がピークであった。平成26、平成27年の週別報告数を図2-2に示した。週当たりの報告数は非流行時には10未満で、平成26年は年間を通して10未満であった。平成27年は第31週から20を超える週が多く、第40週の32が最高であった。





全国集計では平成27年は定点あたり21.7で、平成26年の13.6に比し、59%増であった。図2-3に大阪府と全国のマイコプラズマ肺炎の年間の定点あたり報告数の推移を示す。大阪では平成18年と平成23年をピークとする流行、全国では平成24年をピークとする流行があったことがわかる。1990年代はじめまで日本では4年毎の流行周期がみられたが、諸外国では4～5年の流行周期が持続していると報告されている。H27年は新たな流行の初年と目される。

診断方法は核酸検出（PCR･LAMP等）が37.7%、血清抗体価が31.4%、抗原検出が29.7%であった。抗原検出の低い感度、血清抗体価の上昇までの長い日数と上昇した高抗体価の長期の持続に、診断上の注意が必要である。核酸検出（PCR・LAMP等）は感度、特異性が最も優れているが、軽症例も容易に診断されるので、報告数増加の可能性もある。



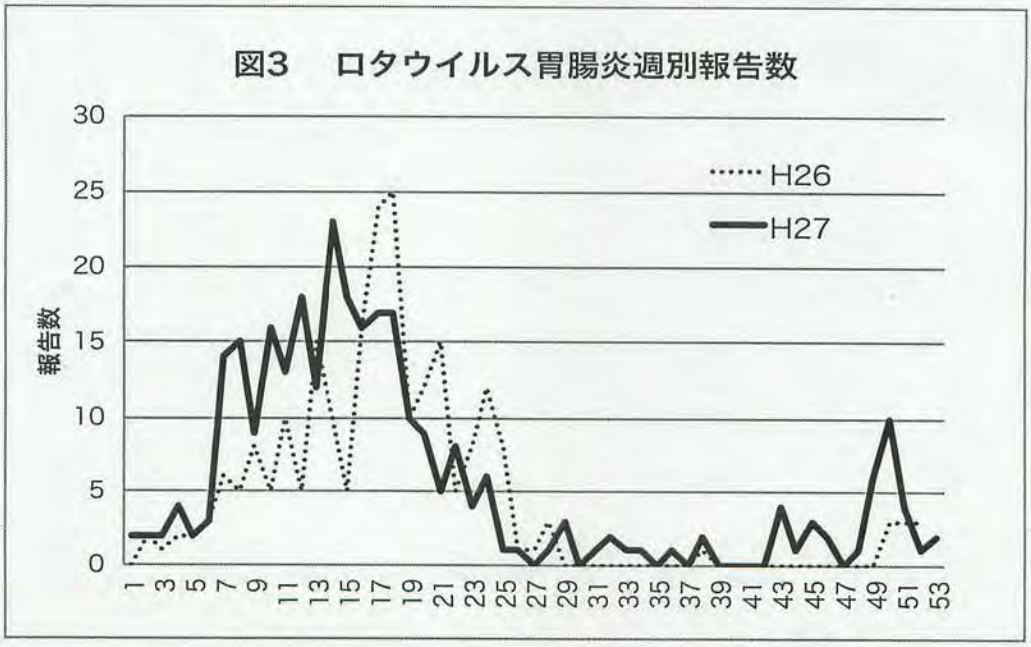
●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチスによる新生児期の肺炎と肺炎クラミジアによる肺炎が含まれる。平成27年は9例の報告で、定点あたり0.5、平成26年の25%減であった。年齢分布では新生児、4歳が各1例、5～9歳児2例、30歳台2例、50歳台、80歳台各1例であった。週別では第40週～第43週に合計4例の報告が集中した。報告定点は4施設と少なく、2施設から各3例、1施設から2例が報告された。診断法は核酸検出が2例、残りが血清抗体で、原因菌は8例が肺炎クラミジアと報告されている。全国集計では412例の報告で、定点あたり0.87で、平成25年の27%増であった。血清疫学からは小児期に感染が多いとされるが、軽症のためか、診断されることがすくないと考えられている。

●感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

平成27年は③北河内を除くブロックから294例が報告され、平成26年に比し28.%増であった。ブロック別では⑤南河内 24.1%、大阪市16.7%、①豊能13.6%の順に多く、週別報告数では第7週から第19週にかけて、10例を超え、第14週の23例がピークであった。年齢は1歳が23.5%と最も多く、3歳16.7%、2歳15.4%で、0～4歳で80.5%を占めた。図3にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。二つの弱毒生ロタウイルスワクチンの初回の接種年齢は6週～15週未満が推奨され、平成25年4月の推計では対象児の接種率は45%である。低い接種率でも集団免疫効果に伴う入院数の減少が生じているという報告があるが、本調査はワクチン任意接種の開始後に始まっており、今後の接種率と入院数の推移を見守ることになろう。

（文責：塩見）

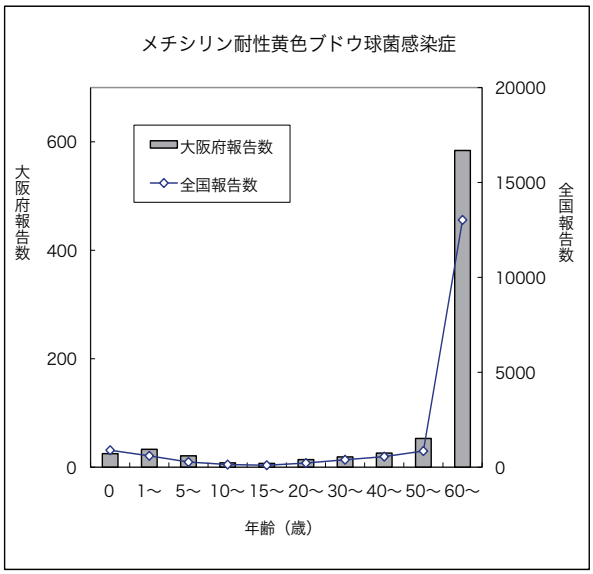


5）基幹定点報告（月報）対象感染症

基幹定点報告（月報）対象感染症は、院内感染対策上問題となりうる薬剤耐性菌が起こす、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の 3 疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は 18 であった。全国および大阪府の報告数は、3 疾患とも平成 26 年より 2 年連続で減少した。なお、薬剤耐性アシネトバクター感染症は平成 26 年 9 月 19 日より 5 類基幹定点対象から 5 類全数把握疾患へ変更となった。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

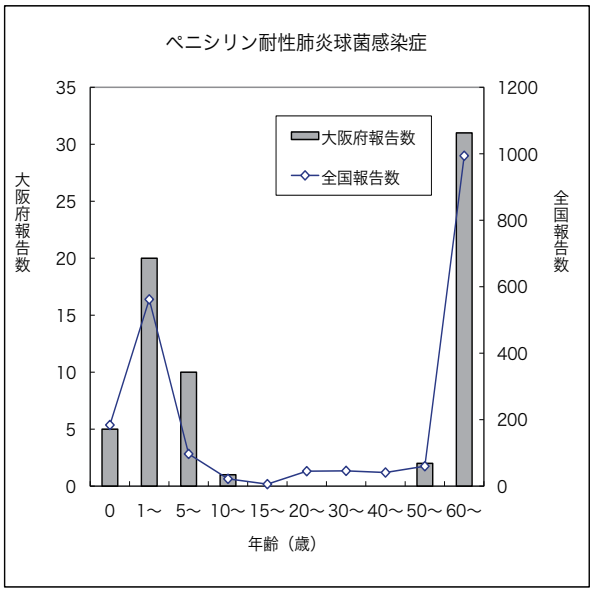
⑩大阪市東部を除く 10 ブロックから前年比 9.5％減の 790 例の報告があり、定点あたり報告数は 43.9 であった。年齢別構成は 0 歳児 25 例、1 ～ 4 歳児 33 例、5 ～ 9 歳児 21 例、10 ～ 14 歳 8 例、15 ～ 19 歳 7 例、20 ～ 29 歳 14 例、30 ～ 39 歳 19 例、40 ～ 49 歳 26 例、50 ～ 59 歳 53 例、60 歳以上 584 例であり、60 歳以上が 73.9％を占め、前年と同様の分布であった。



全国情報（NESID 年報　平成 28 年 3 月 5 日現在）では前年比 5.5％減の 17,057 例の報告があり、定点あたり報告数は 35.6 と大阪府より少なかった。大阪府の報告数は、全国の 4.6%であった。

●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

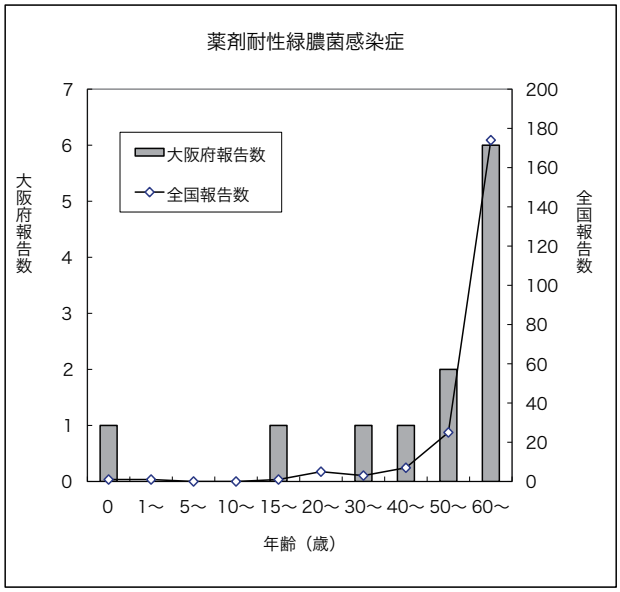
①豊能、②三島、④中河内、⑤南河内、⑥堺市、⑨大阪市西部の 6 ブロックから、前年比 12.7%減の 69 例の報告があり、定点あたり報告数は 3.8 であった。年齢別構成では 0 歳児 5 例、1 ～ 4 歳児 20 例、5 ～ 9 歳児 10 例、10 ～ 14 歳 1 例、50 ～ 59 歳 2 例、60 歳以上 31 例であり、0 ～ 4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 36.2％と 44.9％であった。これは前年と同様で全国でも同様の年齢別構成である。



全国情報(NESID 年報　平成28年3月5日現在)では、前年比10.3%減の2,057例の報告があり、定点あたり報告数は 4.3 と大阪府より多かった。大阪府の報告数は、全国の 3.4%であった。

●薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、②三島、⑥堺市、⑦泉州の 3 ブロックから 12 例の報告があり、前年の報告 29 例より 58.6%減少した。定点あたり報告数は 0.67 と、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症と比べて報告数は少なかった。年齢別構成は、0 歳児 1 例、15 ～ 19 歳 1 例、30 ～ 39 歳 1 例、40 歳～ 49 歳 1 例、50 ～ 59 歳 2 例、60 歳以上 6 例で、60 歳以上が半数を占めた。



全国情報（NESID 年報　平成 28 年 3 月 5 日現在）では、前年比 19.0%減の 217 例の報告があり、定点あたり報告数は 0.45 と大阪府よりも少なかった。大阪府内の報告数は全国の 5.5%であった。

（文責：松浪）

大阪府医師会：「平成 28 年 8 月、大阪府医師会より、大阪府内各市町村の医師会、および大阪市内各区の医師会、５７カ所に対して、電子メールで下記情報の伝達を行った。

〜〜〜

2015 年　感染症の動向

大阪府感染症情報解析評価委員会

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市

感染症の動向で注目された事態や感染症について概説する。個別の感染症は各項を参照されたい。

国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）

世界保健機関（World Health Organization: WHO）が国際保健規則（International Health Regulations: IHRs）に基づき、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（Public Health Emergency of International Concern: PHEIC）を宣言する。現在まで、１）インフルエンザの世界的大流行（2009 年）、２）野生型ポリオウイルスの国際的拡大（2014 年）、３）西アフリカ諸国（ギニア共和国、シエラレオネ共和国、リベリア共和国）におけるエボラウイルス病の流行（2014 年）（http://www.who.int/csr/disease/ebola/en/、http://www.cdc.gov/vhf/ebola/outbreaks/2014-west-africa/index.html）、４）中南米諸国におけるジカウイルス感染症の流行や合併症（妊婦感染による小頭症、頭蓋内石化、その他の中枢神経異常、ギラン・バレー症候群）（2016 年）（http://www.who.int/emergencies/zika-virus/en/、http://www.cdc.gov/zika/index.html）の 4 疾患や事態に緊急事態宣言が発出されている。

日本においても、特に、抗ウイルス薬やワクチンがないエボラウイルス病やジカウイルス感染症に注意が必要である。エボラウイルス病（1 類感染症）は致死性が高いこと（約 40%）、また、ジカウイルス感染症（4 類感染症）は蚊媒介性（ネッタイシマカや日本常在するヒトスジシマカ）、合併症（妊婦感染による小頭症やギラン・バレー症候群）の観点から重要である。

2016 年 03 月 29 日、WHO はエボラウイルス病に関する PHEIC を終結した（http://www.forth.go.jp/topics/2016/03311155.html）。しかし、その後も「エボラウイルス病の再燃症例」が報告されている（http://www.forth.go.jp/topics/2016/04051341.html）。WHO は、再燃のリスクは低下しているものの、大規模に何人もの病気回復者にウイルスが持続保持されていることから、新たな再燃は予想しておかなければならないとも表明している。1,000 人に近い WHO の専門家が、この地域に留まっている。彼らは、必要に応じて緊急対策の活動にも直ぐに対応できるようにしながら、その間に 3 か国における医療体制の回復との保健制度の強化に

努めている。

2015 年 08 月 07 日、厚生労働大臣は国立感染症研究所を特定一種病原体等保有者として、また、国立感染症研究所村山庁舎内の高度安全試験検査施設（BSL-4 施設）を特定一種病原体等所持者として指定した（http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000093493.html）。この指定により、一類感染症であるエボラウイルス病、マールブルグ病、ラッサ熱、南米出血熱、クリミア・コンゴ出血熱などの診断や治療に寄与することが期待される。

薬剤耐性病原体感染症対策

薬剤耐性（Antimicrobial resistance: AMR）病原体感染症対策は世界的課題であることから、「薬剤耐性に関する国際行動計画（WHO、2015 年 5 月）」を踏まえ、日本国は「薬剤耐性（AMR）タスクホース（厚生労働省、2015 年 11 月）」や「薬剤耐性に関する検討調整会議（首相官邸、2015 年 12 月）」を設置した。ヒトと動物等の保健衛生の一体的推進（One Health）の強化と新薬の研究開発に取り組むことが確認された。具体として、1）普及啓発・教育、2）動向調査・監視、3）感染予防・管理、4）抗微生物薬の適正使用、5）研究開発・創薬、6）国際協力が、また、2020 年における成果目標が示されている（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokusai_kansen/pdf/yakuzai_gaiyou.pdf）。

(1) 2020 年の人口千人当たりの 1 日抗菌薬使用量を 2013 年水準の 3 分の 2 に減少させる。
(2) 2020 年の経口セファロスポリン系薬、フルオロキノロン系薬、マクロライド系薬の人口千人当たりの 1 日使用量を 2013 年水準から 50%削減する。
(3) 2020 年人口千人当たりの 1 日静注抗菌薬使用量を 2013 年水準から 20%削減する。
(4) 2020 年の肺炎球菌のペニシリン耐性率を 15%以下に低下させる。
(5) 2020 年の黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率を 20%以下に低下させる。
(6) 2020 年の大腸菌のフルオロキノロン耐性率を 25%以下に低下させる
(7) 2020 年の緑膿菌のカルバペネム（イミペネム）耐性率を 10%以下に低下させる。
(8) 2020 年の大腸菌および肺炎桿菌のカルバペネム耐性率 0.2%以下を維持する。

感染症法の改正

2016 年 04 月 01 日より、改正感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）が施行される。改正における主要な事項は、季節性インフルエンザの臨床検体指定提出機関制度、病原体情報収集体制の強化・整理、検査の精度管理、倫理的配慮である。

感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について（概要）
＜健発1109第3号　平成27年11月9日発出＞

参考資料2－1

背景・目的

○　標記事業は、感染症の発生情報の正確な把握と分析及びその結果の国民や医療関係者への的確な提供・公開について、感染症法（平成10年法律第114号）の規定に基づく施策として、医師等の医療関係者の協力のもと実施。
○　感染症法の一部改正法（平成26年法律第115号）及び感染症法施行規則の一部を改正する省令（平成19年厚生労働省令第159号）の公布に伴い、実施要綱について一部改正を行うもの。

概要

1．「趣旨及び目的」の修正
今般の改正感染症法の施行により規定される病原体情報の収集・解析に関する内容を追記。

2．季節性インフルエンザの指定提出機関制度に関する規定の追加等
①　インフルエンザ病原体定点を指定提出機関として選定することを記載。
②　インフルエンザ病原体定点の選定基準を見直し、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上を、それぞれ3 定点と2 定点を下回らないよう選定する旨規定。
③　インフルエンザについて、流行期には週１検体、非流行期には月１検体を送付する旨規定。（※小児科病原体定点についても、月に４症例からそれぞれ少なくとも１種類の検体を送付する旨規定）

3．病原体の情報収集体制の整理
①　検体検査は、地方衛生研究所又は保健所等の検査施設において、別に定める「検査施設における病原体等検査の業務管理要領」に基づき実施し、検査の信頼性確保に努めることを追記。
②　実態に合わせ、これまで都道府県等本庁の役割となっていたものの一部（保健所が登録した患者情報の確認等）を地方感染症情報センターに整理。

4．その他
①　採取した検体の目的外利用の禁止、及び検体採取の際には、使用目的を説明の上、できるだけ本人の同意をとることが望ましい旨規定。
②　その他所要の改正

施行日：平成28年4月1日

1

なお、2016 年 02 月 15 日、ジカウイルス感染症（病型：ジカウイルス病、先天性ジカウイルス感染症）が 4 類感染症に追加された。ジカウイルス感染症は蚊媒介性（ネッタイシマカや日本に常在するヒトスジシマカ）であるが、輸血や性行為を介した感染症例も報告されている（http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html）。

結核や非結核性抗酸菌感染症

本報告書に収載されていない重要な感染症である結核（2 類感染症）の発生動向について簡潔に記す。結核、ヒト免疫不全ウイルス感染症／後天性免疫不全症候群、マラリアは世界三大感染症である。特に、日本は結核の中蔓延国（低蔓延国：罹患率　10 以下／対人口 10 万人）であるが、G8 など先進国はほとんど低蔓延国である。日本において結核は甚大な健康被害を提供し続けている（表）。

日本国内における結核罹患率については依然として地域差がみられ、首都圏、中京、近畿地域等の大都市において高い傾向が続いている。都道府県では大阪府（罹患率：24.5）、政令指定都市では大阪市（36.8）と首位であり、堺市（21.5）と高い（http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou03/14.html、http://www.jata.or.jp/rit/ekigaku/toukei/nenpou/）。

表．結核の発生動向（世界、日本、大阪府）

	世界（推計）	日本	大阪府
新登録患者数	960万人	19,615人	2,168人
罹患率（対人口10万人）	133	15.4	24.5
死亡者数	150万人	2,099 人	247人

http://www.who.int/tb/publications/global_report/en/

感染症法の規定対象外疾患である非結核性抗酸菌（NTM）感染症は結核菌以外の培養可能な抗酸菌による慢性感染症である。NTM 病原体の内訳では、Mycobacterium avium complex（MAC）が約 90%を占め、次いで、M. kansasii、M. abscessus である。肺 NTM 感染症の罹患率（対人口 10 万人）は 14.7、肺 MAC 感染症の罹患率は 13.3 と最近 20 年間で 5 倍に急増している。結核の罹患率（15.4）は肺結核（全結核の約 80%）を含む全結核であることを考慮した場合、肺 NTM 感染症の罹患率は肺結核を凌駕している可能性がある。NTM 感染症は結核と異なりヒトーヒト感染がないため患者の隔離は不要である。しかし、多くの NTM は薬剤耐性であり、長期間の治療や経過観察が必要である。今後、NTM 感染症の発生動向や対策が重要である（https://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03140_02）。

麻しんの排除状態の認定

2016 年 03 月 27 日、世界保健機関西太平洋地域事務局から、日本が麻しんの排除状態にあることが認定された（http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10906000-Kenkoukyoku-Kekkakukansenshouka/img-327100220.pdf）。排除後も、麻しんに関する特定感染症予防指針（2007 年厚生労働省告示第 442 号）に基づき、ワクチン接種、適切な発生動向調査やウイルス遺伝子解析などの対策が必要である。

（文責：堺市衛生研究所　小林和夫）